内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局　御中

# 地方公共団体における多世代交流を通して活性化するコミュニティづくりの具体化に向けた支援に関する調査研究事業

# 業務報告書

令和４年３月

株式会社 NTT データ経営研究所

## 目次

**第１部　調査研究の概要 ..... 4**
1.1　背景・目的 ..... 4
1.2　本調査研究の全体像（調査研究の構成と推進体制） ..... 4

**第２部「誰もが居場所と役割を持つ」コミュニティモデルの検討・構築（「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」の作成） ..... 6**
2.1　研究会の開催..... 6
2.2　コミュニティモデルの検討・構築（「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」の作成） ..... 8

**第３部　モデル地方公共団体における実施計画策定への伴走支援「誰もが居場所と役割を持つ」コミュニティモデルの検討・構築..... 13**
3.1 モデル地方公共団体の選定 .....13
3.2 モデル地方公共団体における実施計画策定への伴走支援.....15

**第４部　令和３年度「生涯活躍のまち」シンポジウム ..... 44**
4.1 シンポジウムの開催概要.....44
4.2 参加者アンケート結果 .....50

**別添　「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」**

**参考資料**

# 第１部　調査研究の概要

## 1.1　背景・目的

令和元年 12 月 20 日に閣議決定した第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、「多様な人材の活躍を推進する」を横断的な目標の一つとして掲げており、若者・女性等を含めた多様な人材の活躍を推進するためのコミュニティの実現を図る施策として「生涯活躍のまち」が位置づけられている。

「生涯活躍のまち」の推進意向を示す地方公共団体は年々着実に増加している一方で、具体化には至っていない地方公共団体も相当数存在している。

このため、多世代交流を通して活性化するコミュニティのモデル（以下、単に「コミュニティモデル」という。）の構築、その実践に向けた計画策定への支援といった取組手法等について調査研究を行い、その成果を横展開することにより、地方公共団体における「生涯活躍のまち」の取組を促進していく必要がある。

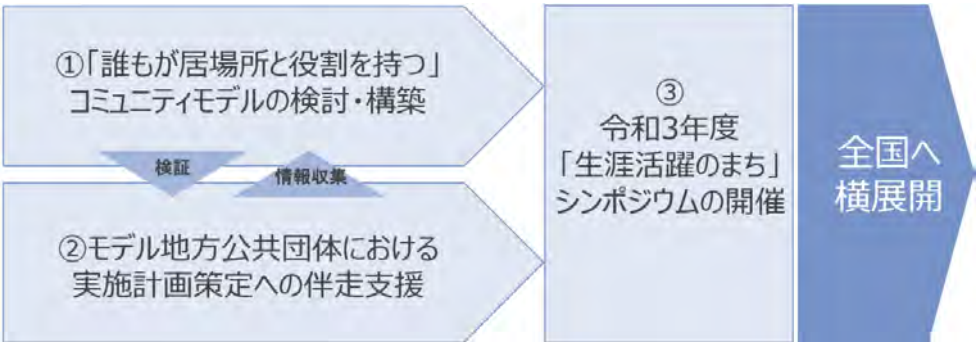
こうした方向性を受け、本事業は、

- コミュニティモデルを構築し、
- コミュニティモデルの実践に向けた計画策定に取り組む地方公共団体（以下「モデル地方公共団体」という。）に対する伴走的な支援を通して、
- その取組手法等について調査研究を行い、地方公共団体等に対して、広く周知を図ることで、各地方公共団体における「生涯活躍のまち」の取組を促進すること

を目的として実施した。

## 1.2　本調査研究の全体像（調査研究の構成と推進体制）

上記の背景・目的を踏まえ、本業務では、次頁のとおり、①「誰もが居場所と役割を持つ」コミュニティモデルの検討・構築、②モデル地方公共団体における実施計画策定への伴走支援、③令和３年度「生涯活躍のまち」シンポジウムの開催の３項目で調査研究等を実施した。




本調査研究の構成

具体的には、**①「誰もが居場所と役割を持つ」コミュニティモデルの検討・構築**に関わるものとして、「地方公共団体における多世代交流を通して活性化するコミュニティづくりの具体化に向けた支援に関する調査研究事業　調査研究会」（以下「研究会」という。）を設置するとともに、そのなかで、誰もが居場所と役割を持つコミュニティモデルの検討・構築を行った。

また、**②モデル地方公共団体における実施計画策定への伴走支援**を並行して実施し、計画策定の手法等について情報収集するとともに、研究会で検討を進めているコミュニティモデルの検証を行った。

なお、「生涯活躍のまち」の取組の促進に向けた地方公共団体への周知を目的とした**③令和３年度「生涯活躍のまち」シンポジウム**を令和４年３月 11 日にオンライン形式で開催した。

（※）②モデル地方公共団体における実施計画策定への伴走支援にあたっては、 一般社団法人つながる地域づくり研究所（岡山県岡山市）の協力のもと事業を進めた。

## 第２部「誰もが居場所と役割を持つ」コミュニティモデルの検討・構築（「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの＜積み木アプローチ＞説明書」の作成）

### ２.１ 研究会の開催

本事業においては、コミュニティモデルの構築等を目的として、「地方公共団体における多世代交流を通して活性化するコミュニティづくりの具体化に向けた支援に関する調査研究事業　調査研究会」を設置した。

地方公共団体における多世代交流を通して活性化する
コミュニティづくりの具体化に向けた支援に関する調査研究事業　調査研究会　委員一覧

| 所属・役職 | 氏名 |
|---|---|
| 一般社団法人北海道総合研究調査会　理事長 | ◎五十嵐　智嘉子 |
| NPO 法人 ETIC.　ローカル事業部長 | 伊藤　淳司 |
| 東京大学先端科学技術研究センター　教授 | 小泉　秀樹 |
| ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス合同会社<br>人事総務本部長 | 島田　由香 |
| Community Nurse Company 株式会社<br>代表取締役 | 矢田　明子 |
| 生駒市　地域活力創生部長 | 領家　誠 |

◎座長

（氏名の五十音順、敬称略、所属は令和４年３月時点）

研究会は下記のとおり 4 回開催し、調査研究に対する議論を実施した。それぞれの議事概要等については、参考資料として添付している。

- **第 1 回研究会**

日時：令和３年５月 26 日（水）10:00～12:00
形式：Zoom による WEB 会議

議事次第：

１．事業概要

２．事例調査と仮説モデル（案）の提示

３．モデル地方公共団体の伴走支援計画の提示

- **第２回研究会**

日時：令和３年 10 月４日（月）10:00～12:00

形式：Zoom による WEB 会議

議事次第：

１．第１回研究会の振り返り

２．コミュニティモデルの構成について

３．コミュニティモデルの内容について（積み木を用いた考え方の提示）

４．モデル地方公共団体支援の進捗報告

- **第３回研究会**

日時：令和３年 12 月 23 日（木）15:00～17:00

形式：Zoom による WEB 会議

議事次第：

１．これまでの振り返り

２．「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」（案）について

３．モデル地方公共団体支援の進捗報告

- **第４回研究会**

日時：令和４年２月 24 日（木）15:30～17:30

形式：Zoom による WEB 会議

議事次第：

１．これまでの振り返り

２．「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」（案）について

３．モデル地方公共団体支援結果報告

４．説明書の全国への展開について

## ２.２ コミュニティモデルの検討・構築（「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」の作成）

● **概要**

本事業では、全国の地方公共団体が活用できる「生涯活躍のまち」の「コミュニティモデル」を、「誰もが居場所と役割をもつコミュニティ」の**"作りかたと続けかた"のモデル**として検討することとした。４ 回の研究会での議論を踏まえ、その検討結果を**「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」**（別添参照）として取りまとめた。

● **検討プロセス**

「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」の取りまとめにあたっては、第１～4 回の研究会において、下記のテーマについて議論を実施した。

なお各研究会での報告内容等の詳細については、参考資料 1～４として本報告書に添付する。

各研究会の検討テーマ等

| 研究会 | 内容 | 主な意見 |
|---|---|---|
| 第１回 | ＜検討テーマ＞<br>●事例調査と仮説モデル（案）の提示<br>・事業概要説明<br>・コミュニティモデルづくりに関する先行事例調査結果の共有<br>・仮説モデル（案）の提示<br>●モデル地方公共団体の伴走支援計画の提示<br><br>＜仮説モデル（案）の概要＞<br>「誰もが居場所と役割をもつコミュニティ」の"作りかたと続けかた"のモデルとして、次の内容を想定<br>①各検討プロセスにおける手法について、様々な選択肢を提示する。<br>②個性ある各地域において、どのように手法を選ぶべきか提示する。<br>③それぞれの手法を有機的に連携させる繋ぎ方を提示する。 | ○何のためのコミュニティづくりなのかを明確にするために、コミュニティづくりの目的（purpose）や将来像（vision）等をわかるようにすべき。<br><br>○モデルは、あくまでモデルに行きつくまでのコミュニティ形成のプロセスについて提示し、各地域において理想的なコミュニティづくりのための道筋を支援するものとすべき。<br><br>○地方公共団体の職員や地域住民等の人材育成も重要な視点<br><br>○モデル地方公共団体の伴走支援で得られた知見を還元できると良い。 |

| 研究会 | 内容 | 主な意見 |
| --- | --- | --- |
| 第２回 | ＜検討テーマ＞<br>●コミュニティモデルの構成について<br>●コミュニティモデルの内容について<br>●モデル地方公共団体支援の進捗報告<br><br>＜コミュニティモデルの内容について（積み木を用いた考え方の提示）＞<br>前提としてコミュニティづくりの目的（purpose）や将来像（vision）等を明らかにした上で、<br>①定型のコミュニティを示すのではなく、プロセスごとにさまざまな手法を提示し、状況に応じて選択することができるモデルとする。<br>②「問題の見つけ方」「コミュニティの作り方」「コミュニティの続け方」の３つのプロセスについて、それぞれ複数の大項目、小項目で構成し、一覧化する。<br>③各プロセスにおける地方公共団体の果たすべき役割についても記載する。<br>⇒地方公共団体が、地域の実態に即して手法等を選択する様を、積み木を積む動作に見立て、「コミュニティづくりの積み木モデル（案）」として提示する。 | ○コミュニティづくりは、地域の課題解決のために検討を始める場合と、地域で目指すべき将来像を実現するために検討を始める場合があるので、その双方を明記できると良い。<br><br>○積み木モデルは分かりやすく、かつ臨機応変な形で示すべき。<br>特に、「問題の見つけ方」「コミュニティの作り方」「コミュニティの続け方」の３つのプロセスは、一方通行ではなく行ったり来たり循環する可能性もあるため、それを明記できると良い。<br><br>○地方公共団体の職員について、誰がどう動くのかについても重要な視点として入れるべき。 |
| 第３回 | ＜検討テーマ＞<br>●「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの＜積み木アプローチ＞説明書」（案）について<br>●モデル地方公共団体の進捗報告<br><br>＜「「生涯活躍のまち」 コミュニティづくりの＜積み木アプローチ＞説明書」（案）について（主な修正箇所等）＞<br>第２回研究会での議論を踏まえ、次の観点を中心に内容を修正した。<br>・「モデル」では定型的なコミュニティの型があるかのように捉えられてしまう可能性があるため、積み木 | ○コミュニティづくりに取り組むにあたって、地域の課題解決のために検討を始める場合と、地域で目指すべき将来像を実現するために検討を始める場合があり、双方とも「地域で目指す将来像づくり（ビジョニング）」のプロセスとして記載することが重要である。<br><br>○地域で目指す将来像は、関係者での目線合わせになるほか、検討を進める中で悩んだ際に立ち戻るポイントになる旨を追記すべき。 |

| 研究会 | 内容 | 主な意見 |
| --- | --- | --- |
| 第３回 | を用いてそれぞれの地域の状況に応じたコミュニティをつくる「アプローチ」の説明書となるよう資料を整理した。<br>・コミュニティづくりによって実現したい地域の将来像や地域が抱える課題について写真を用いてわかりやすく提示した。<br>・「問題の見つけ方」「コミュニティの作り方」「コミュニティの続け方」の３つのプロセスを説明し、必ずしもこの手順ではなく、臨機応変に活用する必要があることを追記した。<br>・「誰が」主体的に動き「どのように」積み木を組み合わせるのかを決めることも重要であることを追記した。 | ○「問題の見つけ方」「コミュニティの作り方」「コミュニティの続け方」の３つのプロセスについては、同時並行的に取り組むことがありうる話なので、それが示せると良い。<br><br>○今後は、地方公共団体への研修等の展開方策を検討すべき。 |
| 第４回 | ＜検討テーマ＞<br>●「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの＜積み木アプローチ＞説明書」（案）について<br>●モデル地方公共団体支援結果報告<br><br>＜「「生涯活躍のまち」 コミュニティづくりの＜積み木アプローチ＞説明書」（案）について（主な修正箇所等）＞<br>第３回研究会での議論を踏まえ、次の観点を中心に内容を修正した。<br>・個別の地域における将来像づくり（ビジョニング）の検討手法について、「生涯活躍のまち」から出発する場合と、地域の課題対応から出発する場合の２つのプロセスを追記し、将来像づくりの重要性を説明した。<br>・「問題の見つけ方」「コミュニティの作り方」「コミュニティの続け方」のプロセスは実際には並行して検討すること、また臨機応変に行ったり来たりすることから、「課題発見」「事業構想」「資源活用」に修正し、順不同であることがわかる名称とした。 | ○モデル地方公共団体の調査結果を積み木で表現しているが、各団体の取組のポイント（工夫したところ等）が記載できると良い。<br><br>○地方公共団体が、積み木アプローチを活用してコミュニティづくりを進めるにあたっては、地方公共団体の職員同士で教え合ったり、知見やノウハウを共有できたりする場があると良い。 |

● 「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」の概要・構成

＜概要＞

研究会での検討結果を踏まえ、地方公共団体向けに、①「生涯活躍のまち」について理解し、取組の意識を高めるきっかけとなること、②実際に取組を始めるための実践的な手引きとなること、を目的として、「生涯活躍のまち」コミュニティをつくるための検討方法等について取りまとめた「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」を作成した。

＜構成＞

取りまとめた「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」の目次構成は次のとおりである。


**第１章　はじめに**

１－１．「生涯活躍のまち」とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
１－２．「生涯活躍のまち」の５機能について・・・・・・・・・・・・・4
１－３．本書の目的・構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

**第２章　なぜいま「生涯活躍のまち」コミュニティづくりが求められているか**

２－１．「生涯活躍のまち」づくりに関するガイドラインの記載・・・・7
２－２．目指すべき「生涯活躍のまち」コミュニティとは？・・・・・・8
２－３．何が問題なのか？何を解決したいのか？・・・・・・・・・・・10

**第３章　「生涯活躍のまち」コミュニティづくりによって目指す将来像（vision）の検討**

３－１．本章について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
３－２．検討プロセス①「生涯活躍のまち」から出発する場合＜全体像＞・・・・14
３－３．検討プロセス①「生涯活躍のまち」から出発する場合＜詳細＞・・・・・15
３－４．検討プロセス②地域の課題対応から出発する場合＜全体像＞　・・・・・18
３－５．検討プロセス②地域の課題対応から出発する場合＜詳細＞　・・・・・・19

**第４章　「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの〈積み木アプローチ〉**

４－１．本章について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
４－２．〈積み木アプローチ〉の各プロセスについて・・・・・・・・・24
４－３．基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
４－４．〈積み木アプローチ〉のご案内・・・・・・・・・・・・・・・26
４－５．〈積み木アプローチ〉を用いた積み上げ例・・・・・・・・・・27
４－６．各積み木の解説及び事例紹介・・・・・・・・・・・・・・・・29
４－７．地方公共団体の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53

**第５章　モデル地方公共団体における取組事例**

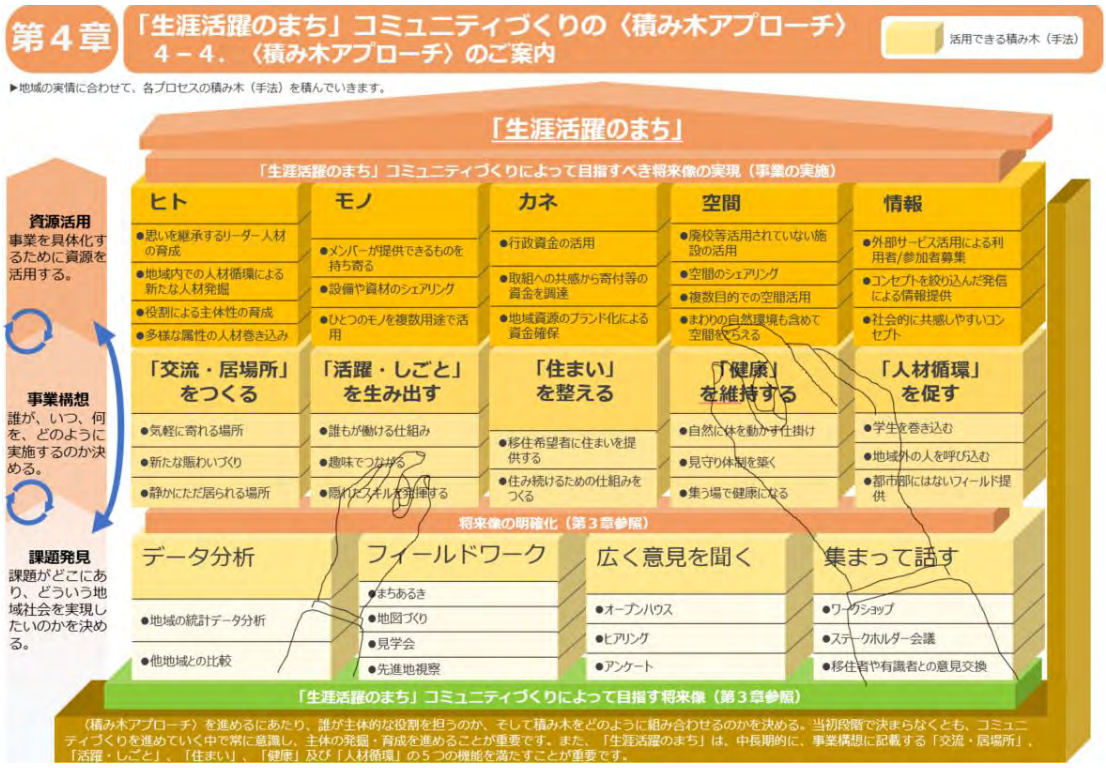
５－１．本章について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
５－２．神奈川県横須賀市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
５－３．新潟県長岡市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
５－４．滋賀県長浜市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
５－５．奈良県高取町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

**第６章　おわりに**


「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」の目次構成

本説明書の制作にあたっては、地方公共団体を主な読者として想定して編纂を行った。地方公共団体等の理解を助けるため、第 1 章において「生涯活躍のまち」についての解説を付すとともに、第 2 章において「生涯活躍のまち」に関わるコミュニティづくりの必要性等について記載した。

「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」では、コミュニティづくりを進めるための将来像づくり（ビジョニング）について、2 つの検討プロセスを解説した（第 3 章）。また地域の実情にあわせた取組がなされやすいよう、コミュニティづくりの各段階における各種手法の組み合わせ方等を「積み木アプローチ」として整理した（第 4 章）




「積み木アプローチ」

- **「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」の普及に向けて**

今後、「「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの ＜積み木アプローチ＞ 説明書」を全国へ展開し、より多くの地域で「生涯活躍のまち」に取り組んでもらうことが重要となっていく。

後述する令和３年度「生涯活躍のまち」シンポジウムにおいて本説明書を発信した。

# 第３部 モデル地方公共団体における実施計画策定への伴走支援「誰もが居場所と役割を持つ」コミュニティモデルの検討・構築

## ３.１ モデル地方公共団体の選定

「生涯活躍のまち」の推進意向をもっているが具体化に至っていない地方公共団体の参考となるよう、モデル地方公共団体の実施計画の策定に向けて行う伴走支援を実施するため、モデル地方公共団体を選定した。

内閣官房から提供を受けた、「生涯活躍のまち」の推進意向がある地方公共団体のリストより、次の選定プロセスで、モデル地方公共団体を選定した。

選定のプロセスと結果は以下のとおりである。

モデル地方公共団体の選定プロセス

| | | |
|---|---|---|
| STEP ① | **候補団体へのヒアリング**<br>コミュニティモデルのテーマや候補団体の意欲を調査 | 候補団体に対してヒアリングを実施 |
| STEP ② | **実地調査**<br>候補団体を訪問し、実地調査を実施 | ヒアリング結果から、4 団体を選定し、オンラインも活用しながら実地調査を実施<br>【4 団体／実地調査日】<br>・神奈川県横須賀市／4 月 9 日<br>・新潟県長岡市川口地域／5 月 21 日<br>・滋賀県長浜市／5 月 25 日<br>・奈良県高取町／5 月 24 日 |
| STEP ③ | **モデル団体の選定**<br>研究会においてモデル地方公共団体を決定 | STEP①②を踏まえた検討結果を、研究会委員に報告した。了承を得てモデル地方公共団体を決定<br>【第 1 回研究会開催日】<br>・5 月 26 日 |

選定にあたり、テーマと意欲を重視して、内閣官房と検討を行った。各団体は選定段階で次頁に記載するテーマと意欲を持っていた。

モデル地方公共団体の選定結果

| 地方公共団体 | 選定時点で想定したテーマ | 当初時点での意欲 | 選定理由 |
|---|---|---|---|
| 神奈川県<br>横須賀市 | 仕事を退職したあとに地域で孤立する高齢者が増えており、町内会等のコミュニティにも参加していない、こうした高齢者を地縁やテーマ性を持つコミュニティに参加させ、居場所をつくる仕掛けの検討（健康×交流・居場所） | 担当課長、担当職員は強い問題意識を持っており、課題解決に向けた意向あり | 「高齢者の孤立」という多くの地域で見られるテーマを扱っており、担当課の意向も強い。 |
| 新潟県<br>長岡市<br>川口地域 | いつでも戻ってくることが出来るまち<br>十分に活用されていない空き家の状況を地域で把握し、若者や子育て世帯等に提供する仕組みの構築（住まい×交流・居場所） | プレーヤーとなる住民・事業者の実施意向があり、市役所も意欲あり | 地域に帰ってきたい人に向けて空き家をあっせんし、居場所を提供するモデルとなる。 |
| 滋賀県<br>長浜市 | 時間的な制約やスキル等が課題となって「働きたいのに働く場がない」女性等が就労できる仕組みの構築（活躍・しごと×交流・居場所） | 担当部長まで意向あり | 子育てママ支援の新事業としてワークシェアリング事業を展開するモデルとなる。 |
| 奈良県<br>高取町 | 地域の困りごとや人手不足を、高齢者や農閑期の新規就農者等の活躍により解決する仕組みの構築（活躍・しごと×交流・居場所） | 担当課の意向強く、新町長もゴーサイン | 行政とシルバー人材センターが連携する形で新たに「しごとコンビニ®」の団体を立ち上げるモデルとなる。 |

## ３.２ モデル地方公共団体における実施計画策定への伴走支援

選定した４つのモデル地方公共団体において、「生涯活躍のまち」のコミュニティづくりのための実施計画策定に取り組んだ。それぞれのモデル地方公共団体で検討を行った内容等について、次頁以降で紹介する。

**＜伴走支援の内容＞**

本業務における伴走支援では、各モデル地方公共団体の状況や要望に応じて以下のような支援を行った。

- 先行事例有識者の調整・手配
- 年間スケジュール（案）の策定、全体コーディネート
- 実地調査、定例協議のファシリテートと議論における課題やソリューションの深堀、論点整理
- 各会議におけるまとめと次回に向けた TODO の整理
- 実施計画策定サポート（様式の提示、モデル地方公共団体作成（案）のブラッシュアップ　等）
- 過去のアンケート調査等のとりまとめ

### 3.2.1 神奈川県横須賀市（報告）

**＜人口規模＞**

388,078 人(対象とした鴨居地域は約 19,000 人)

**＜検討テーマ（検討開始時）＞コミュニティセンターを軸とした、多様な主体が参加できるコミュニティの創出**

都市部のベッドタウンにおいて、退職後の高齢者（特に男性）が社会で孤立しがちとなっている。

孤立を防ぐために、地縁のコミュニティに加えて、テーマ性をもつコミュニティを広めることで、高齢者の居場所や役割を見つける仕組みの構築を図る。

**＜検討主体＞**

生涯活躍のコミュニティづくり実施計画の検討にあたっては、地域福祉課が中心となり、調査・検討を実施した。また、地域のコミュニティセンター（以下横須賀市報告内、コミセン）として鴨居コミセンと浦賀コミセン、浦賀行政センターとも連携した。

**＜定例協議等の実施概要＞**

実地調査及び 7 回の定例協議を通じて、横須賀市で実施した調査結果や実施計画（案）等についての意見交換を行い、実施計画のとりまとめを行った。

| 会議体 | 日時 | 検討議題等 |
|---|---|---|
| 実地調査 | 令和３年４月９日 | 横須賀市の概要と「生涯活躍のまち」の取組の共有 |
| 第１回定例協議 | 令和３年５月 17 日 | 課題に関わるデータ分析結果の報告 |
| 第２回定例協議 | 令和３年６月 28 日 | 令和元年度、２年度に市民を対象に実施した地域活動に関するアンケート調査結果の報告、今後自治会長等に対して実施するヒアリング調査設計 |
| ヒアリング調査 | 令和３年７月 | 地域の現状や資源を把握するため、関係者に対してヒアリング |
| 第３回定例協議 | 令和３年８月３日 | ヒアリング調査結果の報告、今後、各コミセンに対して実施するヒアリング調査設計 |
| ヒアリング調査 | 令和３年８～９月 | 地域資源であるコミセンの利用状況など実態把握に向けたヒアリング |

| 会議体 | 日時 | 検討議題等 |
|---|---|---|
| アンケート調査 | 令和３年<br>7月15日～<br>8月10日 | 地域交流 SNS を活用したアンケートで、市民の地域活動の状況や意向を調査 |
| 第４回<br>定例協議 | 令和３年<br>9月13日 | アンケート、ヒアリング調査結果の報告、乳幼児期の子どもを育てる保護者の居場所づくりに関する調査結果報告 |
| ヒアリング調査 | 9～10月 | コミセンの利用者、利用団体等へのヒアリングから、活用実態を調査 |
| 第５回<br>定例協議 | 令和３年<br>10月27日 | アンケート、ヒアリング調査結果の報告 |
| ヒアリング調査 | 10～11月 | 子育て世代の居場所に対するニーズや要支援者および事業対象者の実態把握に向け関係者へヒアリング |
| 第６回<br>定例協議 | 令和３年<br>11月25日 | ヒアリング調査結果の報告<br>※現地視察（鴨居コミセン等）と併せて実施 |
| アンケート調査 | 12月22日<br>～23日 | 高齢者の特技と活躍可能性を調査するため、スマホ教室でアンケートを実施 |
| 第７回<br>定例協議 | 令和４年<br>1月26日 | 実施計画（案）の内容について |

**＜検討プロセス（定例協議等の経緯）＞**

「横須賀市生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」のとりまとめを行う上で経た、定例協議等の内容については次表記載のとおり。

| 定例協議 | 協議の内容等 |
|---|---|
| 第１回定例協議<br>（５月 17 日）<br><br>【データ分析】 | 市内における高齢男性の孤立という課題についてデータで分析するため、これまでに実施した次の調査結果等の内容を改めて整理した。<br>・市の人口推計<br>・高齢化率の比較（対全国）<br>・転出超過率<br>・市の人口移動状況<br>・ひとり暮らし高齢者の増加率<br>・地域活動に関する高齢者向けアンケート結果<br>・市の日常生活圏域における人口・高齢化率<br>・地域活動を実施・支援する会議体等の設置状況<br><br>⇒これらをもとに、市内で高齢化率の特に高い浦賀地域、鴨居地域を対象に、高齢男性の孤立という課題への対応策を検討することとした。 |
| 第２回定例協議<br>（６月 28 日）<br><br>【住民へのヒアリング調査設計】 | ・過去に実施した市内の地域活動に関するアンケート結果を精査したところ、自治会・町内会以外の地域活動に関しては、参加率が低いことが判明<br>・なぜそのような結果となったかについて、サークルのような地域活動があることが広く周知されていないのでは、といった仮説を立てた上で、**アンケートでは把握できない細かい地域住民の思いをくみ取るため**に、地域住民に対して、次の観点でヒアリング調査を実施するよう設計<br>＜対象＞<br>町内会・自治会長、民生委員等の地域活動のキーマン<br><br>＜内容＞<br>●担当する一人暮らし高齢者の人数と地域の活動への参加状況<br>●地域から孤立していると思われる方の有無<br>●高齢者が地域の活動に参加したきっかけ<br>●地域でのつながり（仲間）の存在（良かったこと、課題）<br>●つながりがない人のつながりがない理由　　等 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第３回定例協議<br>（８月３日）<br><br>【ヒアリング結果等分析①】 | 第２回協議で構想したヒアリング調査を町内会・自治会長に対して実施したところ、次の結果となった。<br>＜ヒアリング概要＞<br>〇対象：町内会・自治会長<br>〇内容：第１回定例会議のとおり<br><br>＜ヒアリング結果＞<br>**・地域活動については、町内会活動、各種サークル等が行われているが、参加者は女性が多く、新規参加者が少ない。**<br>**・地域の子ども会が閉会傾向である。**<br>・男性は「ただ集まる」というより何か目的がある方がよいという印象がある。<br>・目新しい活動の方が、参加してくれると思う。<br>・子どもも一緒に参加する活動であれば、やる気が出るのではないか。<br><br>⇒今後は、地域の民生委員に対してヒアリングを実施するほか、地域のサークル活動の拠点となっているコミセンの利用状況や、コミセンで活動する地域住民に対して、サークルの立ち上げ経緯等を調査することに。 |
| 第４回定例協議<br>（９月 13 日）<br><br>【ヒアリング結果等分析②】 | 新型コロナウィルス感染症拡大による緊急事態宣言発令により、民生委員及びコミセンで活動する地域住民に対するヒアリングは断念。コミセンの利用状況等について調査した結果、次のことが分かった。<br>＜ヒアリング概要＞<br>〇対象：鴨居コミセン、浦賀コミセン<br>〇内容：第１回定例会議のとおり<br><br>＜ヒアリング結果＞<br>・60～80 代の高齢者の利用が多いが、 **平日の夕方以降や休日は若い世代の利用もある。**<br>・運動系、音楽系等幅広い種類のサークル活動が展開している。<br>・既存のサークルへの参加はハードルが高い。<br>・地域の人が興味のある内容の講座を行うと、サークル化する可能性がある。<br><br>⇒コミセンは、サークル活動による交流・活躍の場となるだけでなく、多世代交流の場となる可能性があることがわかった。 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第４回定例協議<br>（９月 13 日）<br><br>【ヒアリング結果等分析②】 | また、地域交流 SNS を活用し、地域活動に関するアンケートを実施したところ、趣味や好きなことに関する集まりへの参加意向が多く見られた。 |
| 第５回定例協議<br>（10 月 27 日）<br><br>【ヒアリング結果等分析③】 | 緊急事態宣言下のため実施を控えていたコミセンで活動する地域住民に対するヒアリングを実施したところ、次のことが分かった。<br>＜ヒアリング概要＞<br>〇対象：コミセン利用者<br>〇内容：地域資源の活用の実態やニーズの把握<br>・<br>＜ヒアリング結果＞<br>・過去に経験があり、興味関心のあるサークル活動は参加しやすい。<br>・参加者のレベルが同じのほうが参加しやすい（初心者向けの「はじめての○○サークル」等） |
| 第６回定例協議<br>（11 月 25 日）<br><br>【ヒアリング結果等分析④】 | 緊急事態宣言下のため実施を控えていた民生委員に対するヒアリングと、地域包括支援センターに対し、要支援者に関するヒアリングを実施したところ、次のことが分かった。<br>＜ヒアリング①概要＞<br>〇対象：民生委員・児童委員、主任児童委員<br>〇内容：地域の特徴、高齢者や子どもに関わる地域活動について把握<br><br>＜ヒアリング①結果＞<br>・地域活動に参加するのは女性が多い。<br>・男性は、明確な目的や役割がないと外には出ていかない傾向がある。<br>・二人暮らしの高齢男性の方が、外に出ていかず認知症になりやすいという印象がある。<br>**・地域の子どもたちがふらっと寄れるような居場所や、子育てママが一息つける場所がほとんどない。（新たな課題の発見）**<br><br>⇒これを受け、地域で子育て世帯向け交流カフェ「mam&kids salon「結―Yui―」」を展開する経営者にもヒアリングを実施。次の意見を得た。<br>・子育て世帯が日頃の悩みや困りごとを相談できる場所としてカフェを作った。<br>・定期的に利用をする人も出てきている。 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第６回定例協議<br>（11 月 25 日）<br><br>【ヒアリング結果等分析④】 | **⇒当初の高齢男性の孤立という課題について、子育て世帯、子どもたちの居場所づくりの観点が追加され、多世代向けの事業構想へと発展**<br><br>＜ヒアリング②概要＞<br>〇対象：地域包括支援センター職員<br>〇内容：要支援者および事業対象者の方の相談理由と介護保険サービス外のニーズについて把握<br>＜ヒアリング②結果＞<br>・外出や機能改善への意欲が高いのは事業対象者および要支援１の方<br>・まだまだ元気な方へデイサービスではなく、地域の楽しいサークル活動等、社会資源を紹介したいが社会資源の把握が困難<br>・地域活動が参照できる一覧や、参加者を募る企画があると紹介できる。<br>・介護予防サポーター、フレイルサポーター等、地域で活躍したいという方の活躍の場があるとよい。 |
| 第７回定例協議<br>（１月 26 日）<br><br>【事業構想】 | これまでの協議結果を踏まえ、鴨居地域を対象として、「世代を問わず誰もが役割と居場所のあるコミュニティづくり」の実現に向け、コミセンの機能を起点として、地域の誰もがサークル活動等によりコミュニティに参加できるよう支援するための方向性・スケジュールを定めた。 |

〇定例協議等における工夫点

① 新型コロナウィルス感染症拡大の影響で時間はかかったものの、住民や関係者等にヒアリングを行い、アンケートでは拾いきれない細かい思いを把握した。

② ヒアリングを通じて得た「市民の生の声」を他部署にも伝え、取組推進に向けた連携体制を築いた。

**＜検討結果の概要＞**

定例協議等を通じた検討の結果、**次の気づきがあり、高齢男性のコミュニティ参加に加え、コミセンを核とした、子育て世帯、子どもの居場所づくり等による多世代が交流、活躍できる仕組みづくりへと発展した。**

〇新たな気付き

① 地域活動に関する詳細な実態の把握（例：地域活動の参加者は女性が多く、新規参加者が少ない。地域の子ども会が閉会傾向にある。）

② 既存施設の活用の実態把握（例：コミセンは 60～80 代の高齢者の利用が多い傾向にあるが、 平日の夕方以降や休日は若い世代の利用もある。）

③ 実態把握に基づく、新たな課題の把握（例：地域の子どもや母親が気軽に立ち寄れる場所がほとんどない。）

今後の取組の方向性等

（※参考資料５「横須賀市（鴨居地域）生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」を参照）

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| 取組の方向性 | 横須賀市では、コミュニティに参加するきっかけをつかめない高齢男性や、気軽に立ち寄れる場所を求める子育て世代等、居場所・役割を見つけたい人が、コミュニティに参加する道筋をサポートする体制を検討する。 |
| スケジュール<br>今後の方向性等 | 今回の取組を契機として、令和４年度以降、「交流・居場所」「活躍・しごと」「健康を維持する」の要素を含む、鴨居コミセンを核とした全世代・全員活躍型の「生涯活躍のまち」づくりの検討を開始する。令和 5 年以降、他地区を含む横須賀市全体での「生涯活躍のまち」づくりの検討を開始する。<br><br>＜令和４年度の実施予定内容＞<br>・地域への報告と意見収集（課題の共有や意見の把握等）を進める。<br>・情報収集・把握として、参加者の募集やイベントに関与する意向のある人を把握する。<br>・実際のイベントや相談会の開催を実施し、相談と活動紹介、市民の興味関心の把握を行う。<br>・最終的にサークル等の活動への参加や新たなサークルの創出に向けた支援を行う。 |

### 3.2.2 新潟県長岡市川口地域（報告）

**＜人口規模＞**

4,087 人(長岡市全体は 266,936 人)

**＜検討テーマ（検討開始時）＞「いつでも戻って来ることの出来るまち」の実現**

長岡市の社会移動をみると、依然 10 歳代後半から 20 歳代のマイナスが続いている。一方、30 歳代以降では転入と転出がバランスするものの、川口地域等支所地域では、「戻ってきた地元出身者」を十分に受止めることが出来ていない状況にある。具体的には、地域に空き家や求人等があるものの、それが可視化されておらず、U ターン希望者に十分に届いていない。

こうしたことを踏まえ、「住まい」や「仕事」を中心とした「生涯活躍のまち」づくりに資する情報を提供する仕組みの構築を目指すこととした。

**＜検討主体＞**

生涯活躍のコミュニティづくり実施計画の検討にあたっては、これまで若者が中心となった地域づくりを検討してきた経緯から、地元の若手の地域まちづくり団体「川口エンジン」（※）と長岡市とが連携した検討体「いつでも戻って来ることの出来るまち長岡・川口　検討 WG」を設置した。

なお検討メンバーは下記のとおり。

・長岡市　地域振興戦略部

・長岡市役所川口支所

・地域まちづくり団体「川口エンジン」

※　地域まちづくり団体「川口エンジン」の概要

川口地域の活性化を目的に、川口商工会青年部メンバーを中心として平成 30 年度に結成されたまちづくり団体。代表は、地元建設会社の代表取締役。

地域体験型ツーリズム事業など、長岡市と連携した活性化事業を継続的に実施していることから、「生涯活躍のまち」づくりを支える住民側の主体として、検討 WG に参加した。

**＜定例協議等の実施概要＞**

「いつでも戻って来ることの出来るまち長岡・川口　検討 WG」では計 6 回の討議を行い、実施計画（案）等についての意見交換を行い、実施計画のとりまとめを行った。

| 会議体 | 日時 | 検討議題等 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 令和 3 年<br>7 月 29 日 | 先進事例①　低未利用の土地・建物を活用する手法を学ぶ<br>先進事例②　仕事をみんなで分かち合う手法を学ぶ |

| 会議体 | 日時 | 検討議題等 |
| --- | --- | --- |
| 第２回 | 令和３年<br>８月 26 日 | 川口地域の概況について<br>シルバー人材に関する動向 |
| 第３回 | 令和３年<br>10 月６日 | 「かわぐち人材センター（仮）」の構想について<br>空きスペースの利活用について（現地情報の共有） |
| 実地<br>調査 | 令和３年<br>10 月 20 日 | 空きスペース等の現地確認等 |
| 第４回 | 令和３年<br>11 月 11 日 | 計画（案）の方向について |
| 実地<br>調査 | 令和３年<br>１２月８日 | 空きスペース等の現地確認等 |
| 第５回 | 令和３年<br>12 月 27 日 | 実施計画（案）骨子について<br>空きスペースの利活用について（現地情報の共有） |
| 第６回 | 令和４年<br>２月 25 日 | 実施計画（案）について<br>空きスペースの利活用について |
| 実地<br>調査 | 令和４年<br>３月８日 | JR 東日本　越後川口駅、駅舎等空きスペースの見学 |

**＜検討プロセス（定例協議の経緯）＞**

「長岡市生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」のとりまとめを行う上で経た、全６回の定例協議の内容等については次の表記載のとおり。経過を通じて特にポイントとなった内容を以下に記載する。

| 定例協議 | 協議の内容等 |
|---|---|
| 第１回検討 WG<br>（7 月 29 日）<br><br>【先進事例調査】 | 「住まい」や「仕事」を中心とした情報の収集・提供等を地域で実施することを目指し、先行的な事例を調査すべく、有識者からのレクチャーを実施した。<br><br>先進事例①　低未利用の土地・建物を活用する手法を学ぶ<br>有識者：一般社団法人シェアリングエコノミー協会<br>・シェアリングエコノミーの仕組み<br>・スペースシェアの事例<br><br>先進事例②　仕事をみんなで分かち合う手法を学ぶ<br>有識者：一般社団法人　つながる地域づくり研究所<br>・「しごとコンビニ®」の取組み内容や事業モデル<br><br>⇒川口地域においても、空間活用や仕事情報等について、同様の趣旨の取組みのニーズやシーズがあるか、調査することとした。 |
| 第２回検討 WG<br>（８月 26 日）<br><br>【地域課題や地域資源の把握】 | 川口地域の現況に関わる既存調査の整理を行うとともに、長岡市役所川口支所より仕事情報に関わる取組について情報提供を実施した。<br><br>議題①　川口地域の概況について<br>・川口地域の人口動向の把握（人口減少、高齢化の進展、将来人口の推計結果等）<br>・地域住民の仕事等に関わるアンケート結果（良い仕事があれば地元で働きたい人が多い等）<br><br>議題②　シルバー人材に関する動向等<br>・長岡市シルバー人材センターの運営体制の紹介<br>・シルバー人材の働きかたの特徴<br>・川口地域におけるシルバー以外の働き手の状況<br>・川口地域における空スペースの調査について<br><br>⇒「シルバーのような仕組みが現役世代にもあれば、労働力を得られる。少しだけ働き |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第２回検討 WG<br>（８月 26 日）<br><br>【地域課題や地域資源の把握】 | たい、といったニーズもある。」といった認識のもと、人材に関わる検討を継続することとした。また、**地域まちづくり団体「川口エンジン」主体で、地域の空きスペースについて実地調査を行うこととした。** |
| 第３回検討ＷＧ<br>（10 月 6 日）<br><br>【事業構想①】 | 川口地域の現況に関わる既存調査の整理を行うとともに、長岡市役所川口支所より仕事情報に関わる取組について情報提供を実施した。<br><br>議題①　かわぐち人材センター構想について<br>・シルバーに加えて、若者、現役世代、関係人口への仕事の手配もできるような形を構想していくことが必要<br>・それを実現するためには、シルバー人材センターと地域側との連携が重要<br><br>議題②　空きスペースの利活用について<br>・地域まちづくり団体「川口エンジン」から、川口地域の具体的な空き家を紹介<br>・家は空いているが人には貸したくないという人が多い。居住を目的とした単純な畳の部屋なのでは、スペースのシェアリングは難しいのではないか。<br><br>⇒人材センターについては、有望な事業であると捉え、実施計画（案）に反映することとした。空きスペースについては、地域まちづくり団体「川口エンジン」による調査を続行することとした。また、WG メンバーで適宜現地確認等を実施することとした。 |
| 第４回検討 WG<br>（11 月 11 日）<br><br>【事業構想②】 | 人材、空きスペース活用等の事業を継続的に実施するための仕組みとして、「ラボ」の可能を検討した。また、地域まちづくり団体「川口エンジン」からは、空きスペースの調査状況について報告があった。<br>具体的には次のような意見が交わされた。<br><br>＜「ラボ」全般＞<br>・これまで WG で議論してきた人材活用や空きスペースの話を継続し、事業など具体的な形にできるよう取り組んでいくための仕掛けとして、ラボの設置等を検討してはどうか。<br>・コミュニティセンター協議会が川口地域で立ち上がった。今後はこれとの連携についても念頭に取り組むと良いと思う。<br>・大筋の方向は非常に良いと感じた。コミュニティセンターとラボの仕掛けの違いを明確化してほしい。 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第４回検討 WG<br>（11 月 11 日）<br><br>【事業構想②】 | ・今年度からテストをすること自体は良いと思う。ディスカッションがこれまで続いてきたので、大まかな方向性を決め、組織を作って試行錯誤をするフェーズに入るのが妥当だと思う。<br><br>＜空きスペース利活用＞<br>・地元ならではの情報力で把握した空き家について家主の意向に応じていろいろな展開ができると良い。例えば販売の希望があれば空き家バンクにつなげ、貸したいのであれば地域まちづくり団体「川口エンジン」が仲介するようなイメージもある。つなぎ方の方向性もラボの中で検討したい。<br>・今後、県営住宅の利活用方法が変化する可能性もある。また、ＪＲ東日本越後川口駅の駅舎内や関連施設に空きスペースがあるとの情報もあり、将来的にはこのような物件を活用していく可能性もあるのではないか。<br>・川口地域には不動産業者がいないという状況下で、仲介をしてくれる人は川口地域をよく知った人である方が貸す側、借りる側も安心できるという考えに共感した。<br><br>⇒「ラボの具体的なゴール」等を明確化することが必要との認識から、引き続きその内容の具体化を図ることとした。 |
| 第５回定例協議<br>（12 月 27 日）<br><br>【実施計画の策定①】 | これまでの議論を踏まえ、実施計画に「ラボ」を位置付けることを前提に、その内容と運営・推進体制等について議論を行った。<br>具体的には次のよう意見が交わされた。<br><br>＜「ラボ」全般＞<br>・補助金等の受け皿となることを見据え、行政も参画した地域協議会を組織する。スピーディーに進めるために、基本は地域の NPO 等が中心になるイメージであり、具体的な主体としては地域まちづくり団体「川口エンジン」を想定している。<br>・鉄道会社や金融機関、地元新聞社等の参加も集ってはどうか。<br>・飯山線沿線の地域対地域の交流事業や被災地間の交流等もできるのではないか。<br>・建設・土建業の参加も検討した方が良い。<br>・関係のある地方公共団体を首都圏の拠点づくりに巻き込む考え方があると思う。<br><br>⇒議論の内容を踏まえ、ラボの内容を再度検討することした。また計画については、ラボを軸に人材、空きスペースの利活用を含めた内容とすることした。 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第６回定例協議<br>（2 月 25 日）<br><br>【実施計画の策定②】 | 実施計画（案）について議論を行った。<br><br>・川口地域では「住民主体・公サポート型」の公民連携まちづくりを引き続き推進することとし、地域まちづくり団体「川口エンジン」が発意する課題解決型の取組を、川口支所、地域振興戦略部が連携して、情報面等でサポートする方向とした。<br>・「住民主体・公サポート型」のまちづくりを担う地域まちづくり団体「川口エンジン」では、①越後かわぐち関係人口共創ラボ（仮）の運営、②空き家・空きスペース活用事業、③仕事と人材マッチング事業の 3 事業を通じて、令和 4 年度以降自主財源の確保等を図り、持続可能な地域活性化活動の推進体制を構築することとし、計画書にとりまとめた。 |

〇定例協議等における工夫点

① 地域ぐるみの取組を進めるため、地域まちづくり団体「川口エンジン」が WG に参加し、議論を主導した。

② 具体的なアイデア等を得るため、有識者からの先行事例に関するレクチャーを行った。

③ 地域まちづくり団体「川口エンジン」が空きスペースに係る実地調査を行う等、地域の実態に基づいた議論を重視した。

**＜検討結果の概要＞**

「住まい」や「仕事」を中心とした「生涯活躍のまち」づくりに資する情報を提供する仕組みを定例協議等において検討した結果、住民組織である地域のまちづくり団体が動くことによって、自治体の窓口などで把握することが容易ではない各種情報（空きスペース、仕事、人材等）が把握できることが確認された。「住民主体・公サポート型」のまちづくり活動により、自治体の取組の一部を地元住民が補完する可能性が見出された（例：空き家バンクやシルバー人材求人等の情報の充実）。

また検討を進めていく過程で、情報提供等の地域活性化に資する活動を定常的に進める仕組みづくりが必要との観点から、越後かわぐち関係人口共創ラボ（仮）のあり方についても検討が進められ、その結果が「長岡市（川口地域）生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」にも反映された。

〇新たな気付き

① 地域まちづくり団体「川口エンジン」の実地調査（空きスペース等）により、地方公共団体だけでは把握できないきめ細かな情報の収集が可能となるなど、「住民主体・公サポート型」のまちづくりならではの可能性が示された。

② 人材や空きスペースの活用といった具体的なテーマの検討を進めるに従い、持続的なまちづくりを支える推進体制の必要性が WG メンバー間で共有され、「越後かわぐち関係人口共創ラボ（仮）の運営」の計画へとつながった。

今後の取組の方向性等

（※参考資料６「長岡市（川口地域）生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」を参照）

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| 取組の方向性 | 長岡市川口地域では「住民主体・公サポート型」の公民連携まちづくりを引き続き推進する。地域まちづくり団体「川口エンジン」が発意する課題解決型の取組を、長岡市役所川口支所、地域振興戦略部が連携して、情報面等でサポートする体制を検討する。<br><br>生涯活躍のコミュニティづくりを担う地域まちづくり団体「川口エンジン」では、下記の 3 事業を通じて、R4 年度以降自主財源の確保等を図り、持続可能な地域活性化活動の推進体制を構築する。<br><br>A) 地域活性化事業（越後かわぐち関係人口共創ラボ（仮）の運営）<br>B) 空き家・空きスペース活用事業<br>C) 仕事と人材マッチング事業 |

| 項目 | 内容 |
| --- | --- |
| スケジュール<br>今後の方向性等 | ＜令和４年度＞<br>・テスト事業の実施（A.地域活性化事業、B.空き家・空きスペース活用事業、C.仕事と人材マッチング事業）<br>・補助事業等への参画<br>・「生涯活躍のまち」づくりメニューの詳細検討<br><br>＜令和５年度＞<br>・地域まちづくり団体「川口エンジン」の本格運用開始<br>・地域再生計画の検討 |

### 3.2.3 滋賀県長浜市（報告）

**＜人口規模＞**

113,636 人

**＜検討テーマ（検討開始時）＞「働きたいのに働く場がない」女性等への仕事の提供を核として、事業者や市民の交流を生み出す仕組みのあるまちづくり**

長浜市では、時間的な制約やスキル等が課題となり「働きたいのに働く場がない」という状況にある女性がいる一方、市内の事業者は人で不足等の課題を抱えている。

市内には子育て支援に取り組む団体である「合同会社 LOCO（以下、LOCO）」が、多様な女性等の個別の状況を把握しており、支援の意向を持っている。LOCO と長浜市が連携し、地元企業と女性等をつなぎ、仕事づくりを推進する仕組みづくりを検討することとした。

**＜検討体制＞**

長浜市の企画調整を担当する政策デザイン課が中心となり、「仕事・活躍」をテーマに業務を行う人権施策推進課（女性活躍関連事業を所管）、商工振興課（働く女性応援関連事業を所管）、市民活躍課（地域における活躍関連事業を所管）が連携し検討を実施した。移住や「ふるさと寄附」の活用に関連する内容の検討にはふるさと移住交流室も連携した。庁外の団体とも連携して仕組みを検討しており、LOCO やえきまち長浜株式会社（地域の交流・居場所づくりを推進）、長浜デザイン戦略室（クリエーションセンターの運営、関係人口・移住者との連携）との意見交換を行った。

**＜実地調査と定例協議＞**

実地調査及び 5 回の定例協議を通じて、長浜市で実施した調査結果や実施計画（案）等についての意見交換を行い、実施計画のとりまとめを行った。

| 会議体 | 日時 | 検討議題等 |
|---|---|---|
| 実地調査<br>第 1 回<br>定例協議 | 令和 3 年<br>5 月 25 日 | 長浜市の概要と「生涯活躍のまち」に資する既存の取組の共有 |
| 第 2 回<br>定例協議 | 令和 3 年<br>6 月 29 日 | 昨年度実施の関連ヒアリング調査の結果報告、今後の方向性検討 |
| 第 3 回<br>定例協議 | 令和 3 年<br>7 月 16 日 | 関係者が一堂に会した意見交換会 |

| 会議体 | 日時 | 検討議題等 |
| --- | --- | --- |
| 第４回<br>定例協議 | 令和３年<br>９月 22 日 | 意見交換会の結果報告 |
| 第５回<br>定例協議 | 令和３年<br>12 月８日 | 実施計画（案）の骨子について |
| 第６回<br>定例協議 | 令和４年<br>２月９日 | 実施計画（案）の内容について |

**＜検討プロセス（定例協議の経緯）＞**

「長浜市生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」のとりまとめを行う上で経た、定例協議等の内容等については次の表記載のとおり。

| 定例協議 | 協議の内容等 |
|---|---|
| 第１回定例協議<br>（５月 25 日）<br><br>【課題や地域資源等の把握】 | ○長浜市における人口・少子高齢化の現状・課題について、次のデータを用いて確認した。<br>・人口の推移<br>・人口動態（自然動態、社会動態）<br>・世代別・男女別人口減少数<br><br>○事業構想の土台となる地域資源について議論するため、次の計画等を踏まえながら、市のビジョンと女性等への就労支援の実施状況、「生涯活躍のまち」づくりの拠点として活用が想定される拠点について議論した。<br>・長浜市総合計画<br>・第２期長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略<br>・女性等の就労支援事業の実施状況<br>→女性のビジネスマッチング支援等を実施する LOCO を核とした「生涯活躍のまち」づくりができないか。<br>・再開発した拠点の活用状況<br>→JR 長浜駅周辺に所在する拠点「えきまちテラス長浜」について、「生涯活躍のまち」づくりの拠点として活用できるのではないか。<br><br>⇒LOCO が実施する「働きたいのに働く場がない」女性等への仕事の提供を核として、事業者や市民の交流を生み出す仕組みの構築に向けた検討を進めることとした。 |
| 第２回定例協議<br>（６月 29 日）<br><br>【事業構想①】 | 女性等への仕事の提供を核とした、事業者や市民の交流を生み出す仕組みを構築する上では、市が既に取り組んでいるサテライトオフィス関連事業、「長浜ワークロケーション事業」と連携し、仕事をキーワードに人の流れづくりに取り組み、人と地域をつなげることが有効と考え、その内容等について確認した。<br><br>○サテライトオフィス関連事業<br>令和 2 年度に実施したニーズ調査では、関西圏の事業者から利用を希望する声が寄せられており、市ではサテライトオフィスへの企業誘致を推進予定<br><br>○「長浜ワークロケーション事業」 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第２回定例協議<br>（６月 29 日）<br><br>【事業構想①】 | 市内企業とリモートワーカーのマッチングを行うための事業で、令和３年度に実装予定<br><br>⇒こうした事業間連携を実現するには、LOCO のほか、市の人権施策推進課、商工振興課等との連携が不可欠であるため、連携体制構築に向けた働きかけを行うこととした。 |
| 第３回定例協議<br>（7 月 16 日）<br><br>【庁内横断・官民連携体制の構築】 | 市役所のメンバーに加え、実施主体・連携先となりうる民間の団体等の思いを、関係部署が一堂に会し議論する機会を設け、「民間主体／地方公共団体サポート型」という、長浜市らしい官民連携での推進の基盤を作った。これにより、**それぞれ共通して認識していた「仕事」に関する課題を中心に取組や現状等を共有し、共に目指す大きな方向性や連携の可能性を探った。**参加者は下記のとおり。<br><br>＜長浜市＞<br>・長浜市総務部政策デザイン課（担当部署）<br>・ふるさと移住交流室<br>・長浜市人権施策推進課<br>・長浜市商工振興課<br>・長浜デザイン戦略室<br>＜民間事業者＞<br>・LOCO<br>・えきまち株式会社（「えきまちテラス長浜」運営）<br><br>⇒意見交換で検討した目指す方向性を踏まえ、具体的な取組の検討を進めることとした。 |
| 第４回定例協議<br>（9 月 22 日）<br><br>【事業構想②】 | 官民連携の意見交換を経て、「女性の活躍・しごとの応援」と「サテライトオフィス・リモートワークを通じての都市部と地域の交流」という２つの柱で取組を整理した。<br><br>〇女性の活躍・仕事の応援<br>・女性の参画についての意識変革「ステップゼロ」の取組<br>・女性の非正規労働者が多いことの要因分析と対策<br>・企業に対する啓発<br><br>〇サテライトオフィス・リモートワークを通じた都市部と地域の交流<br>・長浜市らしい魅力の発掘を通じた、都市部のリモートワーカーと地域・市民との交流 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第４回定例協議<br>（9 月 22 日）<br><br>【事業構想②】 | の推進<br>・リモートワーカー（副業人材）と市内企業の連携の促進<br>・事業の自立化に向けた検討<br><br>⇒これまで整理・検討してきた内容を踏まえ、「生涯活躍のまち」の実施計画骨子をまとめることとした。 |
| 第５回定例協議<br>（12 月８日）<br><br>【実施計画の策定①】 | 「女性の活躍・しごとの応援」と「サテライトオフィス・リモートワークを通じた都市部と地域の交流」という２つの柱を実施するために、**既存の事業との連携**等を通じて「地域共創型ふるさと寄附」を活用する実施計画（案）の骨子を作成した。主な内容は次のとおり。<br><br>・LOCO と連携し、短時間就労が可能となる仕組みづくり<br>・地元企業とリモートワーカーがつながる仕組みづくり<br>・女性・企業・リモートワーカーをつなぐ仕事づくり<br><br>⇒この内容をブラッシュアップし、「生涯活躍のまち」の実施計画（案）としてまとめることとした。 |
| 第６回定例協議<br>（２月９日）<br><br>【実施計画の策定②】 | 骨子で示された方向性を踏まえ、次のとおり、具体的な取組の方向性について示す実施計画を策定した。<br><br>・LOCO と連携し、地域の女性が短時間でも就労でき、地域の仕事を地域で回すことが可能となる仕組みづくりに取り組む。<br>・地元企業とリモートワーカーがつながる仕組み「長浜ワークロケーション事業」に取り組み、地元企業のやりたいことや課題と、自身のスキルや経験を活かして関わるワーカーのマッチングを図る。<br>・女性・企業・リモートワーカーをつなぐ仕事づくりを推進するため、ふるさと寄附の運営を外部委託等ではなく地域で行う体制を整備し、「安定した仕事づくり」と「魅力ある返礼品の開発」を実現する「地域共創型ふるさと寄附」に取り組む。 |

〇定例協議等における工夫点

① 庁外の関係者と市役所のメンバーが一堂に会して意見交換を行う場を設けることで、前向きな意見が出るといった好循環が生まれた。

② LOCO のように、自分自身が汗をかいて頑張っている人の声を庁内の連携先の部署等に届けることで、協力を得やすくなった。

**＜検討結果の概要＞**

定例協議等を通じた検討の結果、次の気づきがあり、「働きたいのに働く場がない」女性等への仕事の提供を核として、事業者や市民の交流を生み出すことにより、地域の女性が短時間でも就労できる地域内循環の仕組みづくりが具体化されただけでなく、地元企業とリモートワーカーがつながる仕組みづくりが具体化されたことで、事業内容が発展した。

新たな気付き：

① 「生涯活躍のまち」というキーワードで事業を検討することで、一貫して見ることができ、すき間や連携の可能性等にも気付くことができた。

② 旧来の政策の枠組みを超え、庁内外の課題に目を向けることで、女性と移住者という人材の掛け合わせなど、新たな交流や気づきが生まれるきっかけになった。

今後の取組の方向性等

（※参考資料７「長浜市生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」を参照）

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| 取組の方向性 | ・LOCO と連携し、地域の女性が短時間でも就労できる地域内循環の仕組みづくりに取り組む。また、地元企業とリモートワーカーがつながる仕組みとして「長浜ワークロケーション事業」に取り組み、地元企業のニーズとリモートワーカーのマッチングを図る。<br>・女性、企業、リモートワーカーをつなぐ仕組みを作るために、地域でふるさと寄附の運営を行う。 |
| スケジュール<br>今後の方向性等 | ・今回の取組を契機として、令和４年度以降、「交流・居場所」「都市部との人材循環」の要素を含む、長浜市全体での「生涯活躍のまち」づくりの検討を開始する。<br>・その際には、地方共創型ふるさと寄附の仕組み活用を試行し、計画内容の実現に向けて推進する。また、長期的には他の要素も含めた「生涯活躍のまち」の実現を目指し検討を進める。<br><br>＜令和４年度の実施予定内容＞<br>・地域共創型ふるさと寄附の仕組みを活用した時短勤務の試行<br>・「長浜ワークロケーション事業」のロールモデルの拡大とニーズのマッチング |

### 3.2.4 奈良県高取町（報告）

**＜人口規模＞**

6,729 人

**＜検討テーマ（検討開始時）＞高齢者や子育て中の女性、介護をしている人等が活躍でき、全ての人の望む生き方を実現するまちづくり**

高取町内ではこれまで担い手となってきたシルバー人材センターのメンバー減少、高齢化、固定化等の影響により、事業者や地域・地区の人手不足や担い手不足が課題であった。

一方で、高齢者や子育て中の女性、農閑期の新規就農者等、働きたいけど働けない町民がいることが分かってきており、これらの主体を結びつける「しごとコンビニ®[1]」の仕組みを導入することで、人手不足と働きたいニーズ双方の課題解決を図ることができるのではないかと考えた。

そこで、本業務においては町内の事業者や町民に対するヒアリング調査等を通じて、高取町の住民等のニーズを確認し、住民等にとって真に必要な「しごとコンビニ®」の仕組みを構築するべく検討を進めることとした。

**＜検討体制＞**

高取町総合政策課が中心となり、調査・検討を実施した。その際、庁内及び庁外と連携しながら調査・検討を進めた。

庁内体制については、調整会議（町長・副町長・教育長・課長級が出席）の場で検討内容や進捗状況を説明することにより、庁内周知・連携を図った上で、各課へヒアリングを行った。

庁外との連携については、シルバー人材センター及び社会福祉協議会や商工会と連携して検討を行った。

**＜実地調査と定例協議＞**

実地調査や定例協議等を通じて、高取町で実施した調査結果や実施計画（案）等についての意見交換を行い、実施計画のとりまとめを行った。

---

[1] 「しごと」を通じて多様な人が望む生き方を実現する」を理念に、地域の働く人と仕事を発掘してつなぐ、業務委託型の短時間ワークシェアリングの仕組み。
https://shigoto-conveni.jp/

| 会議体 | 日時 | 検討議題等 |
|---|---|---|
| 実地調査<br>第１回<br>定例協議 | 令和３年<br>５月 24 日 | 高取町の概要と「生涯活躍のまち」に資する既存の取組の共有 |
| 第２回<br>定例協議 | 令和３年<br>６月 29 日 | コミュニティモデルの事例紹介：「しごとコンビニ®」<br>今年度の調査設計（ヒアリング等）について |
| ヒアリング調査 | 令和３年<br>７月 | 町民の感じている課題やニーズをヒアリング |
| 第３回<br>定例協議 | 令和３年<br>７月 26 日 | 調査内容についての進捗報告 |
| ヒアリング調査 | 令和３年<br>8～9 月 | 地域の事業者が感じている課題やニーズをヒアリング |
| 第４回<br>定例協議 | 令和３年<br>９月 27 日 | 調査結果についての報告 |
| 第５回<br>定例協議 | 令和３年<br>12 月 16 日 | 実施計画（案）の骨子について<br>※現地視察と併せて実施 |
| 第６回<br>定例協議 | 令和４年<br>２月７日 | 実施計画（案）の内容について |

**＜検討プロセス（定例協議の経緯）＞**

「高取町市生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」のとりまとめを行う上で経た、全６回の定例協議の内容等については次の表記載のとおり。

| 定例協議 | 協議の内容等 |
|---|---|
| 第１回定例協議<br>（５月 24 日）<br><br>【現状分析、地域課題の把握】 | 高取町の現状・課題について、次の項目に沿って確認した。<br>・少子高齢化の状況<br>・交流拠点の整備・利用状況<br>・地域住民の健康事業（体操教室）の実施状況<br>・空き家の実態<br>・新規就農者の農閑期における仕事のニーズ<br><br>⇒特に、新規就農者から寄せられた農閑期における仕事のニーズに対応するために、地域の困りごとを手伝う取組が必要と考え、「しごとコンビニ®」のアイデアを活用しながら、その具体的な内容を検討することとした。 |
| 第２回定例協議<br>（６月 29 日）<br><br>【先進事例調査・調査設計】 | ○高取町で地域の困りごとを手伝う取組を具体化するために、「しごとコンビニ®」の制度概要や先進事例について共有した。<br><br>○地域で困りごとを手伝う取組を検討する上では、町民や事業者の具体的なニーズ把握が鍵となるため、以下の内容で調査を実施することとした。<br><br>＜調査対象＞<br>・町内の事業者<br>→経済センサスを基に選定した先<br>（町内産業の特徴に鑑み、製薬、医療・福祉、農業は重視する）<br>・町民<br>→新規就農者にはヒアリング済み。子育て中の女性と高齢者が対象<br>＜調査方法＞<br>・アンケートとヒアリングの併用<br>＜調査項目＞<br>・町内の事業者<br>→事業内容、課題、繁忙期の状況、出したい業務等のニーズ<br>・町民<br>→働き方、場所、時間、時間帯、内容、収入等の希望 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第２回定例協議<br>（６月 29 日）<br><br>【先進事例調査・調査設計】 | ＜調査実施体制＞<br>・庁内連携や、シルバー人材センター及び社会福祉協議会との連携<br><br>⇒調査設計に基づき、実際にヒアリングやアンケートを進めることとなった。 |
| 第３回定例協議<br>（７月 26 日）<br><br>【ヒアリング結果等分析①】 | 高取町より関係者に町民への調査結果が報告された。結果から、以下のニーズが明らかになった。<br><br>＜ヒアリング概要＞<br>〇対象：町民<br>〇内容：第２回定例会議のとおり<br><br>＜ヒアリング結果＞<br>【町民の課題】<br>・子どもの事情で、働くことの出来る時間が限られている。<br>・町外で仕事をしてきたいので、町内につながりを持ちたい。<br>・お金だけでなく、人の役に立ちたい、つながりが欲しい、気分転換したい、といったニーズがある。<br>・パソコンを使う仕事をしたいが、町内にはない。<br>・デザインや広報の仕事をしてみたいが、町内にはない。<br>【地域の課題】<br>・高齢になって身の回りのことが出来なくなっている人が増えている。<br>・田んぼや水路の維持管理をする人が高齢化、不足して来ている。<br><br>⇒次回に向け町民が希望する仕事も踏まえながら事業者の調査を行うとともに、調査結果を踏まえた地域の課題解決につなげる仕組みを検討していくこととした。 |
| 第４回定例協議<br>（９月 27 日）<br><br>【ヒアリング結果等分析②】 | 高取町より関係者に事業者への調査結果が報告された。結果から、以下のニーズが明らかになった。<br><br>＜ヒアリング概要＞<br>〇対象：町内の事業者<br>〇内容：第２回定例会議のとおり |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
| --- | --- |
| 第４回定例協議<br>（９月 27 日）<br><br>【ヒアリング結果等分析②】 | ＜ヒアリング結果＞<br>・事業者に対する調査から、人手不足の状況や、それに伴う事業への影響（事業拡大ができない、事業承継ができない）等の課題がある。<br>・９割の事業者が、仕事を出したい（ニーズあり）と回答し、 18 事業者から、幅広い内容の 71 案件が挙げられた。<br>・一方で、シルバー人材センターや社会福祉協議会には、担い手不足等の課題があり、連携することで、より進展した形で地域の課題解決につながると考えられる。<br><br>⇒これらの調査結果を踏まえ、実施計画（案）の骨子を策定することとした |
| 第５回定例協議<br>（12 月 16 日）<br><br>【事業構想】 | 調査結果を踏まえ、次の内容を含む実施計画（案）の骨子について関係者間で意見交換を行った。<br><br>〇町民、町内の事業者双方の仕事に関するニーズをマッチングさせるため、「しごとコンビニ®」に取り組むこと。<br><br>〇仕事を通じたコミュニティづくりという面からも取組を進め、既存のコミュニティに参加していない町民のフォローにもつなげることまた、**ヒアリングを通じて、子育て世帯が仕事だけでなく交流の場を求めていることがわかったため、遊休施設等を活用し、拠点を開設し、「交流・居場所」機能を、さらに促進すること**。<br><br>〇これらを PR に用いて都市部との人の流れづくりに取り組むこと。<br><br>⇒実施計画骨子と関係者から得た意見を踏まえ、次年度以降の方向性やスケジュール、今後の「生涯活躍のまち」づくりに向けた考え方をまとめ、実施計画の策定を進めることとなった。 |
| 第６回定例協議<br>（２月７日）<br><br>【実施計画策定】 | 骨子で示された方向性を踏まえ、次のとおり、具体的な取組の方向性について示す実施計画を策定した。<br><br>・課題解決の仕組みとして、「しごとコンビニ®」に取り組む。<br>・シルバー人材センターや社会福祉協議会と連携し、高取町らしい仕組みを構築する。<br>・「活躍・しごと」を通したコミュニティづくりという面からも取組を進め、既存のコミュニティに参加していない町民のフォローにもつなげる。 |

| 定例協議 | 協議の内容等 |
|---|---|
| 第６回定例協議<br>（２月７日）<br><br>【実施計画策定】 | ・合わせて、「しごとコンビニ®」を実施するに当たっては、リアルで集い、仕事をしたり、学んだり、交流したりできる拠点が有効であるため、その開設を検討し、「交流・居場所」機能を、さらに促進する。<br>・「しごとコンビニ®」推進の財源確保のため、企業版ふるさと納税を募集・活用し、また、都市部の企業人材と協働して、「都市部との人材循環」の下で事業を進める。 |

〇定例協議等における工夫点

・　町民が町内で働ける仕組みとして、55 歳以下も業務を受けられるシルバー人材センターのような取組を検討したが、派遣業法の関わる内容で資格の取得が必要になることから、役所では対応できないという課題があった。このため、構想段階から、本年度に業務委託方式を活用したアイデアを用いて事業を実現するまで約 4 年間かかったが、この間に、庁内の他部署に対してアイデアを積極的に共有し、連携しやすい体制づくりを行っており、それを活用して、庁内連携の強化を図った。

**＜検討結果の概要＞**

定例協議等を通じた検討の結果、下に記した新たな気付きを得て、「しごとコンビニ®」の導入と合わせてコミュニティづくりという面からも取組を進め、既存のコミュニティに参加していない町民のフォローにもつなげるよう、事業内容が発展した。これにより、コミュニティの活性化に活用するために集まって仕事や交流ができる拠点整備も進めることとなった。

新たな気づき：

①　子育て中の女性や高齢者のニーズ調査を通じて、仕事によってお金だけでなくつながりや気分転換なども求める意向があることを新たに把握した。

②　「しごとコンビニ®」の実施にあたり、リアルで集うための拠点の開設の検討も進んだことから「生涯活躍のまち」の要素のうち「活躍・しごと」だけでなく、「交流・居場所」についても機能を補完・強化する事業に発展することができた。

今後の取組の方向性等

（※参考資料８「高取町生涯活躍のコミュニティづくり実施計画」を参照）

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| 取組の方向性 | 課題解決の仕組みとして、「しごとコンビニ®」に取り組み、シルバー人材センターや社会福祉協議会と連携し、高取町らしい仕組みを構築することを目指す。<br>「活躍・しごと」を通したコミュニティづくりという面からも取組を進め、既存のコミ |

| 項目 | 内容 |
| --- | --- |
| 取組の方向性 | ユニティに参加していない町民のフォローにもつなげる。<br>これに合わせて、「しごとコンビニ®」を実施するに当たっては、リアルな場で集い、仕事をしたり、学んだり、交流したりできる拠点が有効であるため、その開設を検討し、「交流・居場所」機能を、さらに促進する。<br>「しごとコンビニ®」推進の財源確保のため、企業版ふるさと納税を募集・活用し、また、都市部の企業人材と協働して、「都市部との人材循環」の下で事業を進めていく。 |
| スケジュール<br>今後の方向性等 | ・今回の取組を契機として、令和４年度以降、「住まい」「健康」の要素を含む、高取町全体での「生涯活躍のまち」づくりの検討を開始する。<br>・その際には、地方創生推進交付金や地方創生拠点整備交付金等の活用も視野に入れ、計画内容の実現に向けて推進する。<br>・こうした取組を通して、女性や高齢者等が活躍でき、全ての人の望む生き方を実現するまちづくりを進め、広く発信することで、高取町のファンを増やし、転出の抑制や転入の増加につなげる。<br><br>＜令和４年度の実施予定内容＞<br>・事業者及び町民向けの説明会や広報、訪問活動等により、仕事及び登録者を集めて、「しごとコンビニ®」事業を開始<br>・コミュニティのコーディネートについては、役場担当者がその役割を担いながら、人員配置についても検討を進める。<br>・公共施設の空きスペースを活用して事業を開始し、実施する中で、課題や利用者等の要望を踏まえ、遊休施設の活用も念頭に置きながら、拠点についての検討を行う。<br>・地方創生推進交付金等の活用（令和５年度以降）についても検討<br>・企業版ふるさと納税の募集や、都市部の企業人材との連携を、継続して進める。 |

# 第４部　令和３年度「生涯活躍のまち」シンポジウム

## 4.1 シンポジウムの開催概要

本調査研究で「生涯活躍のまち」づくりに取り組んだ４ つのモデル地方公共団体の取組結果や「積み木アプローチ」の内容を共有することを通じ、「生涯活躍のまち」の取組を広く周知等することを目的として、下記のとおりシンポジウムを開催した。

**令和３年度「生涯活躍のまち」シンポジウム**

日時：令和４年３月 11 日（金）15:00～17:00
形式：Zoom ウェビナー（オンライン）
主催：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
事務局：株式会社 NTT データ経営研究所
参加者数（事前申込者）：81 名（地方公共団体職員が中心）
プログラム：

| 時間 | プログラム等 | 登壇者 |
|---|---|---|
| 15：00-15：05（5 分） | 開会 | 内閣官房 |
| 15：05-15：10（5 分） | 趣旨説明（シンポジウムの趣旨や進行について） | 株式会社ＮＴＴデータ経営研究所 |
| 15：10-15：30（20 分） | モデル地方公共団体の取組説明 | 神奈川県横須賀市、新潟県長岡市、滋賀県長浜市、奈良県高取町 |
| 15：30-15：40（10 分） | 積み木アプローチの説明 | 内閣官房 |
| 15：40-16：45（65 分） | 座談会：「生涯活躍のまち」のはじめ方・取り組み方と<積み木アプローチ>の活用<br>（１）テーマ１：個別事業の構想方法<br>（２）テーマ２：庁内の巻き込み方<br>（３）質疑応答 | 司会：五十嵐智嘉子　北海道総合研究調査会理事長<br>モデル地方公共団体：神奈川県横須賀市、新潟県長岡市、滋賀県長浜市、奈良県高取町<br>有識者：小泉秀樹　東京大学先端科学技術研究センター教授<br>領家誠　生駒市地域活力創生部長<br>内閣官房 |

| 時間 | プログラム等 | 登壇者 |
|---|---|---|
| 16：45-17：00<br>（15 分） | 閉会（今後の取組方針についての案内） | 内閣官房 |

告知用チラシ：

「生涯活躍のまち」の具体的事業をご検討される皆さまへ

＜令和３年度地方公共団体における多世代交流を通して活性化するコミュニティづくりの具体化に向けた調査研究事業＞

# 令和３年度「生涯活躍のまち」シンポジウム

～モデル自治体の実践事例を通じた「生涯活躍のまち」の具体化モデル〈積み木アプローチ〉のご案内～

今年度の調査研究結果として、「生涯活躍のまち」づくりに一から取り組んだ４モデル自治体の取組結果と、それらを通じて策定した「生涯活躍のまち」の具体化モデル<積み木アプローチ>を共有することにより、「生涯活躍のまち」を具体化するためのプロセスについて解説します。本シンポジウムに参加いただくことで、「生涯活躍のまち」の具体化に関するノウハウ等の発見を期待できることが、メリットとして挙げられます。ふるってご参加ください。

**日 時**　2022年3月11日（金）
15:00～17:00（14:30開場）

**会 場**　ウェビナー（Zoom）

**対 象**
・「生涯活躍のまち」の取組意向はあるが、何から手を付けるべきか迷っている市区町村・都道府県
・地域のさまざまな課題を「生涯活躍のまち」を通して解決したいと考えている市区町村・都道府県
・既に「生涯活躍のまち」に取り組んでいるが、新たな事業を構想したい市区町村・都道府県　等
※ぜひ部署横断的な参加をお待ちしております。

| 時 間 | プログラム | 内 容（予定） |
|---|---|---|
| 15:00-15:05 | 開会 | 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局よりご挨拶 |
| 15:05-15:10 | 趣旨説明 | シンポジウムの趣旨や進行について事務局よりご説明 |
| 15:10-15:30 | モデル自治体の取組説明 | 神奈川県横須賀市、新潟県長岡市、滋賀県長浜市、奈良県高取町より、モデル事業で取り組んだそれぞれの地域の「生涯活躍のまち」コミュニティづくりの調査結果や検討内容についてご説明 |
| 15:30-15:40 | 積み木アプローチの説明 | 「生涯活躍のまち」コミュニティを具体化するためのモデル<積み木アプローチ>についてご説明 |
| 15:40-16:45 | 座談会 | **モデル自治体・有識者・事務局による座談会：**<br>**「生涯活躍のまち」のはじめ方・取り組み方と<積み木アプローチ>の活用**<br>司会：五十嵐智嘉子　北海道総合研究調査会理事長<br>モデル自治体：滋賀県長浜市、奈良県高取町<br>有識者：小泉秀樹　東京大学先端科学技術研究センター教授<br>領家誠　生駒市地域活力創生部長<br>事務局：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局<br>株式会社NTTデータ経営研究所<br>**（1）テーマ１：個別事業の構想方法**<br>実際に事業を構想するきっかけ、苦労した点、工夫した点、得られたメリット、今後の展望などについて、<積み木アプローチ>を踏まえて議論<br>**（2）テーマ２：庁内の巻き込み方**<br>検討体制構築にあたって、どのように庁内を巻き込み、拡大したか、苦労した点、工夫した点、得られたメリット、今後の展望などについて、<積み木アプローチ>を踏まえて議論<br>**（3）参加者からの質疑応答** |
| 16:45-17:00 | 閉会 | 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局より<br>今後の取組方針に関する案内およびご挨拶 |

参加申込み締切
3/4（金）正午

**お申込み**　下記URLまたは右のQRコードよりお申込みください。
https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_2XZ7nPE9SWiCR-uvpYsLRg

**お問合せ**　Mail：kojag@nttdata-strategy.com
担当：古謝、安生、久保（株式会社NTTデータ経営研究所）

**主催：**内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局　**委託事業事務局：**株式会社NTTデータ経営研究所

座談会の概要：

＜個別事業の構想方法＞

- 本日は取組のきっかけ、苦労・工夫した点、取組を進めているプロセスの中で感じているメリット、今後の展望について、まず横須賀市からお話いただきたい。（五十嵐氏）

- 当初認識していた「高齢者の孤立」という課題へ対応するための交流の場づくりにあたって、横須賀市は戸建てや商業施設がたくさんあるが、気軽に集まれる空きスペースや土地がないという現状があるため、既存の施設を活用する方向で検討を開始した。規模の大きな自治体ではよくあることだと思うが、横須賀市では、事業ごとに係が分かれており、今回の生涯活躍のコミュニティづくりを進めるためには、部を超えての連携も必要であった。連携といっても、それぞれに本来業務が多岐に渡るため、リスクヘッジや「できないこと探し」をしてしまうということもあり、話を持ち掛けることにも難しさを感じていた。
- そこで、まずは、ステークホルダーとなり得る支所との連携や高齢者の相談窓口である地域包括支援センターとの連携を考えた。支所等では、既に様々な事業を実施しているため、連携にあたっては、その点に考慮が必要であった。市民の実際の「声」を伝えることを意識した結果、少しずつ足並みがそろっていった印象がある。（以上、横須賀市）

- 新規就農者の声から事業を始めたという高取町に次にお話を伺いたい。大変興味深いきっかけだが、その後 4 年かかったといった苦労等に関するお話をお願いしたい。（五十嵐氏）

- 住民や新規就農者とのワークショップで、地域に仕事があると良いという「声」が寄せられたのが事業に取り組むきっかけになった。町の実態を見ても、町内に事業者があるのに、町民は大阪に勤めに出ている状況であったため、町民が町内で働けると良いと考え、シルバー人材センターのような業務を年代問わずできれば面白いと感じていた。今年度の調査研究事業を通じて実現したが、実現まで 4 年かかった。その理由は、当初検討していた事業手法は派遣業法に関わる内容なので、資格の取得が必要であり、ニーズはあっても、行政が行うべき業務かどうか悶々とした気持ちでいた。そのような状況下で「しごとコンビニ®」の仕組み（業務委託方式）を知り、そこからはどんどんとうまく進んでいき、事業が具体化され、その運営を担う一般社団法人の設立までに至った。
- 町として法人格を得るまでに発展したきっかけは、シルバー人材センターが仕事の依頼はたくさんあっても人手が不足して対応しきれていなかったこと（シルバー人材センターの仕組みでは 55 歳以上でないと業務を受けられない。）。そこで派遣ではなく業務委託するという「しごとコンビニ®」の仕組みが解決手法となり、法人設立が実現した。これをきっかけに、企業のサポートや子育て世代のサポート、高齢者支援等全体を巻き込んだ動きになりつつある。（以上、高取町）

- 横須賀市の中核市としての状況はよく理解できる。「事業あって政策なし」といった状況はよくあるこ

と。中核市レベルの大きな組織になると個人の業務も細分化し、横のつながりが薄くなりがちである。予算段階でデマケをするため、本質的に他の部門・事業同士が交わることがない。その中で、多くの人が横の連携が必要だと気づいているとは思うが、自分から動きを始める人がいない状況であると思う。なので、「生涯活躍のまち」に取り組むことが、接点のきっかけとなりうると思う。横須賀市は、コミュニティセンターを軸として、高齢男性を当初のターゲットとしつつ、若い世代まで広がりを持てたというのがポイント。事業だけを粛々と進めるだけではうまくいかないので、コミュニティセンターのように色々な事業が乗っかることが可能な場所でフォーマルとインフォーマルの間の取組をすることでアイデアが生まれていくのだろうと感じた。

- 高取町については、逆に 4 年間の熟成期間が良かったと思う。一度風呂敷を広げた検討をしてきたことで事業の取捨選択ができていたのではないか。その中で、「しごとコンビニ®」に出会ったときに一気に進めることができたのだと思う。（以上、領家氏）

- 大変興味深い報告だった。横須賀市はコミュニティに関する課題が多くあるが、同時に資源も多く可能性のある地方公共団体だと認識している。
- 行政マンはかなり適切な課題認識を既に持っている場合が多いと感じており、「課題認識に至るきっかけ」及び「課題に対するアプローチ方法」が重要で、各市町の報告は大変興味深い。
- 横須賀市では、インタビューをすると同時に、支所が役立ちそうだという仮説を持っていた。専門職や協力機関を特定して、その人たちの行動変容を促すための材料として、インタビューを通じた市民の声集めをしており、大変、戦略的だと感じる。多くの地方公共団体でも参考になる動き方だ。高取町では、4 年間の熟成期間があったからこそ、庁内で課題や取り組むべき方向性が共有されていたので、そこに最適な解決策が現れたときに一気に進んだのだと思う。異なる立場の人たちの連携でプロジェクトが進んでおり、興味深かった。
- また、横須賀市のコミュニティセンター、長浜市の LOCO のように、地域の資源（ヒト・モノ等）に関する認識から課題に対するアプローチ方法を構想することが大事なのだとヒントをいただいた。（以上、小泉氏）

- 領家氏、小泉氏のコメントを踏まえ、まずは横須賀市に、世代的に広がりを持たせていくためにどうしたか、課題認識に至るきっかけ等お伺いしたい。（五十嵐氏）

- 私は高齢部門に関わる担当者だったので、高齢者に関する課題は認識していた。
- 今回は調査研究をひとつのきっかけとして他部署にご理解いただけたということが、新たな課題を発見し、事業内容を広げるきっかけとなった。通常業務の範疇を超えて、連携や協力をいただくことはなかなかハードルがあることだと思うが、調査研究事業を通じて協力を呼び掛けることにより連携が進んだと思う。具体には、地域住民の声をヒアリング調査していた際に、他部署から地域内に子育てサロンなどがあるといった情報を教えてもらったことによる。これを受け、サロンの経営者にヒアリングに行き、次の展開を考えていった。（以上、横須賀市）

- 地方の課題はどこも共通する内容が多いと思う。立地的に近くに先進的な取組を行う地方公共団体も多いので、施策や良い面・悪い面を見ることができていた。成功する、しないは別で、新しい取組をどんどん試していた。うまくいく取組は始めたときの周囲の反応が違うので、試していくことで町に合う、良い施策を考えることができ、それを全庁的に共有していくことで、新たな課題を把握することができた。（以上、高取町）

- 川口地域は市内でも飛び地という特徴がある。私自身は川口の担当者として、地域まちづくり団体「川口エンジン」という民間団体の皆さんと一緒に活動してきたので考えが良くわかる。長く寄り添って取り組んできたので、そうした連携の中で、課題を把握していた。また、「良いものは良い、悪いものは悪い」と言える関係性ができており、民間の視点だと行政の仕組みを十分に理解できていないこともあるので、できないことについてはできないと伝えた上で、別の切り口を伝えながらこれまでも事業構想を進めてきた。（以上、長岡市）

- 地域でがんばって活動している人の課題認識は適切だと感じる。LOCO さんは、「田舎だと高校卒業後はアルバイト等をしてきた女性も多く、コロナの影響もあり仕事に苦労している。」といった課題認識を持っており、それが事業構想のきっかけとなった。
- また、市内の事業者では人手不足という課題もあると感じていたが、外部の人たちと市役所メンバーで一緒に議論したところ、同じ課題認識を持っている人が多いことに気づいた。今回取り組んだ中で特に良かった点は、集まって話したことで共通の課題認識が生まれたことである。（以上、長浜市）

＜庁内の巻き込み方＞

- 「生涯活躍のまち」を進めようとすると、他部署との連携が重要になる。各地方公共団体でどう進めたのかお伺いしたい。（五十嵐氏）

- 小さい町なので庁内でも廊下ですれ違う時等で話しかけるといったきっかけがあり、連携がとりやすかった。また課長会議等様々な場で事業構想について情報共有を図った。協力を求めると身構えられるので、やろうとしていることのみを伝えるようにしている。そうすると、何かのきっかけに声をかけてもらえることがある。先に情報を伝えることが大事だ。（以上、高取町）

- 話を進める上で、やりたいことを押し付けるだけではだめだと意識していた。他部署のそれぞれの取組について話を聞き、理解した上で、「こちらができることはないか。一緒にやりたい。」という形で話をした。地域の声を伝えるだけでなく、押し付けないような話の進め方が重要だと思う。（以上、横須賀市）

- 日々、「生涯活躍のまち」に関する相談を地方公共団体から受けているが、特に多い悩みは、「横

断的に連携する事業内容について、すでに別の部署が重点的に取り組んでいる場合がおり、既に取り組んでいるからと、連携に応じてくれない」という内容だ。「生涯活躍のまち」を進めるためには、事業間連携をする方が良いが、どう連携するか悩んでいる地方公共団体も多い。どのように連携したのか詳細を教えてほしい。（内閣官房）

- ✓ 課題認識を全庁的に共有できるかが鍵だと思う。その上では、やる気のある人の課題認識を共有するのが有効な方法だ。私から庁内に伝えるのではなく LOCO の代表が認識する課題を伝えたからこそ伝わった。（以上、長浜市）
- ✓ 市内全域の事業とすると、関係部署が多くなり構えられてしまう場合は多くなるので、まずは川口地域での事業として連携体制を構築することにより、小さく育てるよう心掛けた。今後、川口地域をモデルとして、市内全域に広めていきたい。（以上、長岡市）

- ニーズや課題の共有が大事だ。役所の人は基本まじめなので、地域住民などの当事者から聞いた課題すべてに対応しなければならないと考える。従って、「解決できない課題は、聞かない」傾向がある。ただし、当事者が言っていることをいったんすべて聞く、ということが大事だ。ヒアリングしても役所側が自分のテリトリーに関わる課題の内容しか拾わない姿勢では横ぐしにならない。長浜市のように、関係者で集まって話す機会をつくると即興性がうまれて「それなら自分ができそう」という意見がどんどん出てくる。そうした即興性の積み重ねが地域性として評価されていくのだと思った。
- すでに熱心に取り組んでいる別事業とのバッティングについて、生駒市では地域コミュニティから仕掛けているので、すでにしかりやっている地域包括や地域共生の部門で取り組まれている事業とはぶつかってしまう。話を持っていくと「よく似たことは、もうやっている」と言われてしまう。同じテリトリーではあるが、政策の領域が少し違うという理解が相互に必要。地域共生との違いでいえば、「生涯活躍のまち」は、仕事に結び付けるという点が異なるので、地域共生側にとっても一緒にやっていくうえで役立つ考え方だと思う。横須賀市は逆に地域包括側から話をもっていっているので、どちらかというとスムーズに連携できると思う。（以上、領家氏）

- 行政内部の横ぐしをうまく刺すためには、市民の声という行政にとって重みのあるものを集めることが有効だ。声があるから一緒にやろうと誘うことが大事だ。様々な主体と連携するスタイルが多いので、ステークホルダーを巻き込んだ結果、他の部門に「ステークホルダーが志向している」という働きかけ方もある。ただ、ボトムアップだけだとうまくいかない場合もあると思う。自分が過去にコミュニティづくりに携わった際は、「東大の先生がそう言っている」という理由で行政マンの仕事がしやすくなっているようだった。また首長の理解を得ることも大事で、何度も説明に行ったこともあった。制度が「錦の御旗」になることもあるので、先に国の予算を得るという方法もある。
- 「生涯活躍のまち」の普及には属人的な強みだけでなく、コーディネーションを支援する仕組みも必要なのだと感じた。今回の 4 地方公共団体の話も多様で大変役に立つ。今後は行政の悩みに対応するヒントやノウハウ等を得られるような機会があると、他部署の巻き込み方についても解決していけると思う。（以上、小泉氏）

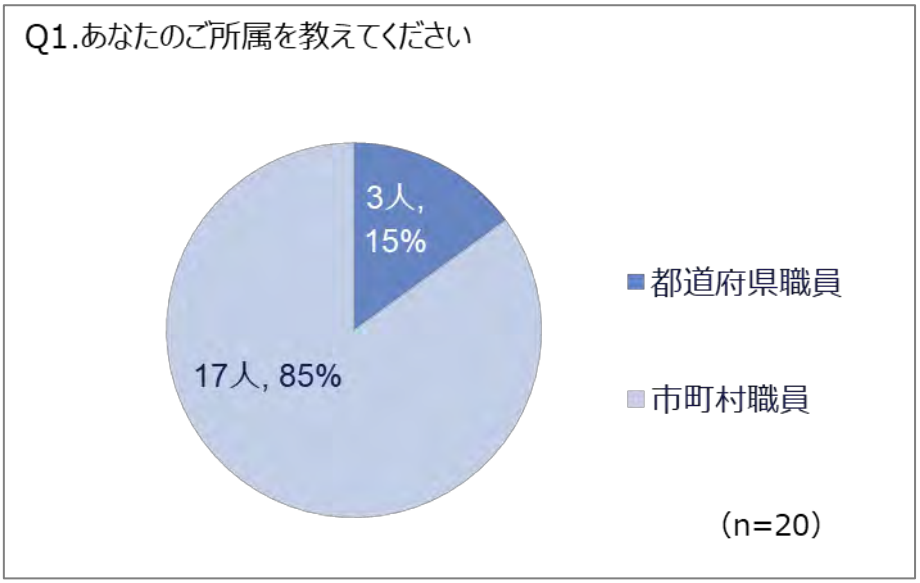
### 4.2 参加者アンケート結果

本シンポジウムでは、視聴者に対し事後アンケートを行った。参加者のうち、20 名から回答が得られた。結果を下記に記載する。

（１）回答者の属性等

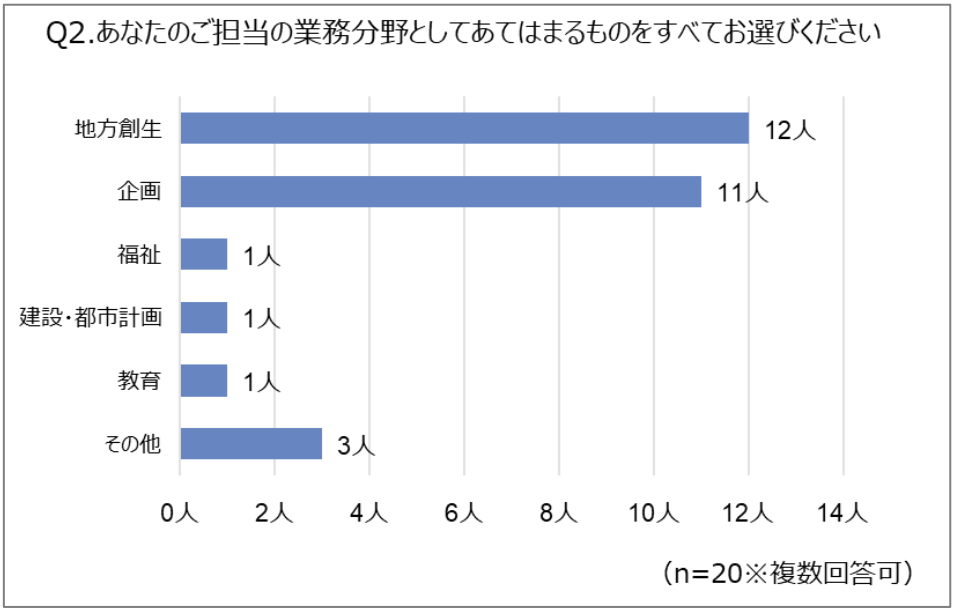
●回答者の所属

市町村職員と回答した人が最も多く、17 人（85%）であった。




●回答者の担当業務

「地方創生」「企画」と回答した人がそれぞれ半数を上回った。

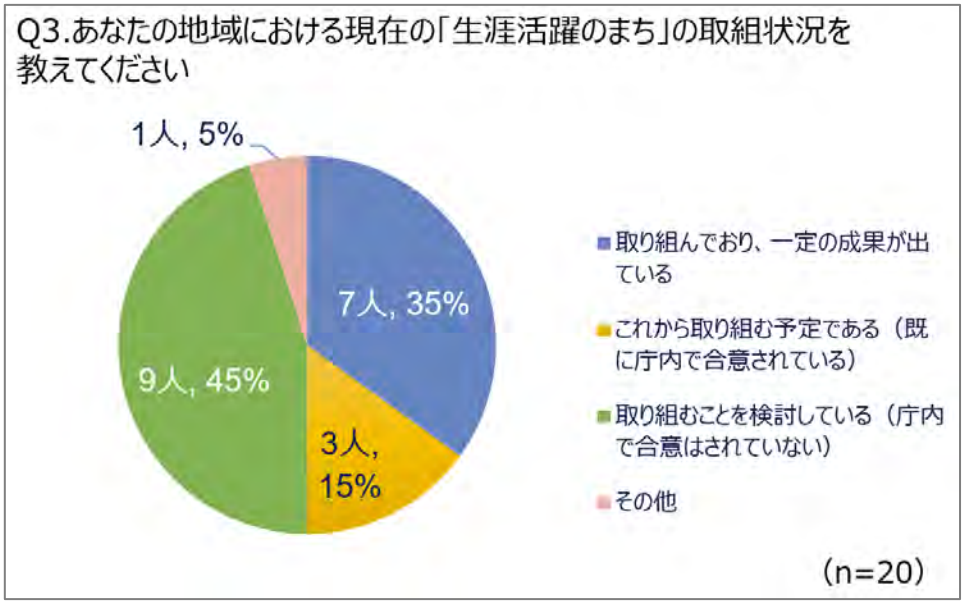



その他の回答内容：移住、中山間地域の支援、総務課建設事務所の研修業務等

●「生涯活躍のまち」の取組状況

「生涯活躍のまち」について、「取り組むことを検討している」が最も多く、9 人（45%）であった。次いで「取り組んでおり、一定の成果が出ている」が 7 人（35%）で続いた。

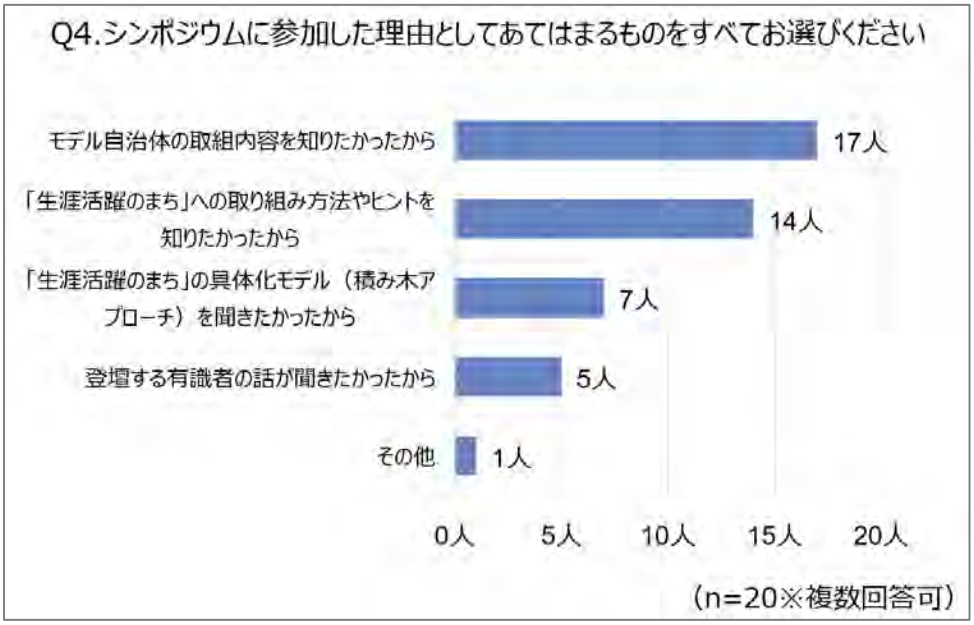
その他の回答内容：どういう制度なのか勉強中



（２）シンポジウムの内容等

●シンポジウムの参加理由

シンポジウムの参加理由で最も多いのは「モデル地方公共団体の取組内容を知りたかったから」で 17 人、次いで「「生涯活躍のまち」への取組方法やヒントを知りたかったから」で 14 人となり、この 2 つの回答は過半数の回答者から参加理由として挙げられた。




その他の回答内容：自分の仕事に活かせないか知りたかったから

●シンポジウムの満足度

シンポジウムの内容について、「生涯活躍のまち」の取組を進める上で「とても参考になった」が 5 人（25%）、「参考になった」が 15 人（75%）と回答者全員から参考になったという評価が得られた。

●満足度の設問の回答理由

Q5 の回答を選択した理由としては、具体的な事例が参考になったという内容が多数を占めた。

Q6.上記（Q5）の回答を選択した理由を教えてください。

【Q5 で「とても参考になった」と回答した人】

＜具体的な事例に関する内容＞

- 事例発表を生の声で聴くことができたため。
- 具体的な実例を交え、本音の話を聞くことができたから。
- モデル地方公共団体のプロセス等を拝聴でき、今後の業務の参考としたい。

＜「生涯活躍のまち」の取組全般に関する内容＞

- 取り組むにあたって、課題の想定等につながった。

【Q5 で「参考になった」と回答した人】

＜具体的な事例に関する内容＞

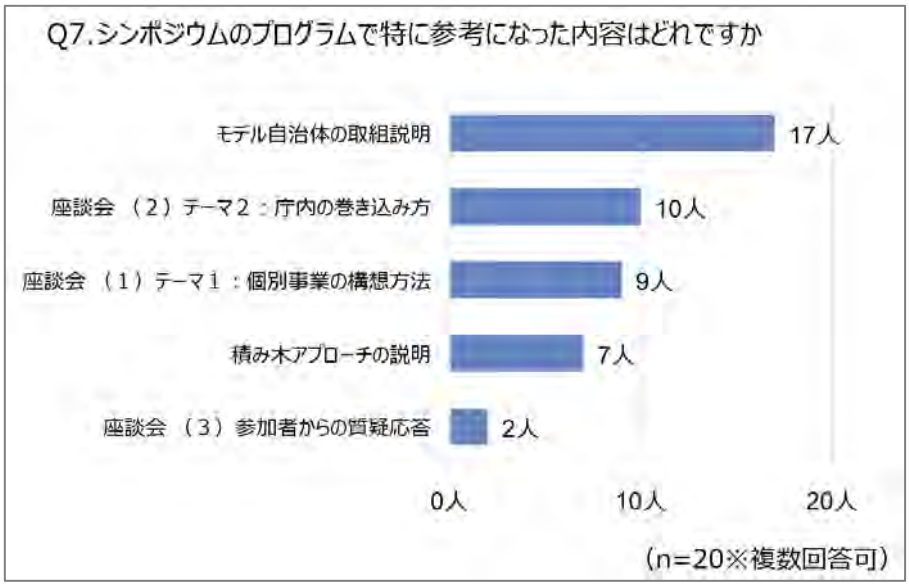
- 具体的な取組事例について話が聞けたため、どのように取り組んでいけばよいのか、イメージが持てるようになったから。
- 他地方公共団体の話が聞けたため。ありがとうございました。
- 大変参考になる事例が多かったため。
- 良い例をみることができました。意見が言える機会があったら言えるように勉強したいとおもっています。ありがとうございました。
- 令和 3 年度から取組を開始しており、先進事例を今後の展開の参考にしたい。構想段階の取組はすでに経過しているため、新たな収穫はそれほどなかった。

＜「生涯活躍のまち」の取組全般に関する内容＞

- 「生涯活躍のまち」の継続部分や、他事業での進め方で参考になったから。
- 歴史や土地柄に違いはあるものの、地域課題が同じで取り組み状況等で連携できると思ったから。

●特に参考になったプログラム内容

シンポジウムのプログラムで特に参考になった内容は、「モデル地方公共団体の取組説明」が 17 人と最も多かった。次いで座談会の「テーマ２ ：庁内の巻き込み方」が 10 人と回答者の半数が選択した。




● ＜積み木アプローチ＞への意見

シンポジウムで照会した＜積み木アプローチ＞に関する意見として、以下の 2 つが寄せられた。

Q8. シンポジウムでご紹介した＜積み木アプローチ＞の内容についてご意見等があればお寄せください。

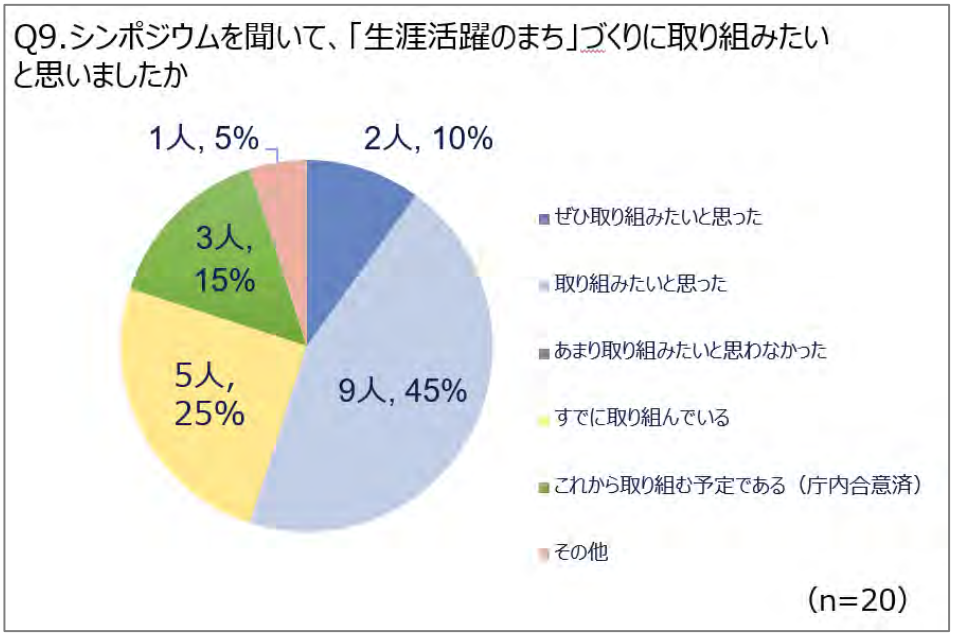
＜回答＞

- これからぜひ活用していきたい。
- これは、各パーツとしても使えるのかを知りたかった。

（３）「生涯活躍のまち」の取組状況等

●シンポジウムを経ての「生涯活躍のまち」の取組推進意向

シンポジウムを聞いて、「生涯活躍のまち」づくりに「ぜひ取り組みたいと思った」は 2 人（10%）、「取り組みたいと思った」は 9 人（45%）であり、回答者の過半数がシンポジウムの参加により取組推進の意向が高まった。




その他の回答内容：一つの施策として選択肢の中に入るのか見極めたい

●取組推進意向の回答の選択理由

Ｑ９の回答を選択した理由について、自由記述欄で 2 人から回答があった。以下に記載する。（回答数：2 件）

Q10.上記（Q9）の回答を選択した理由を教えてください。

＜Q9 で「ぜひ取り組みたいと思った」を回答＞

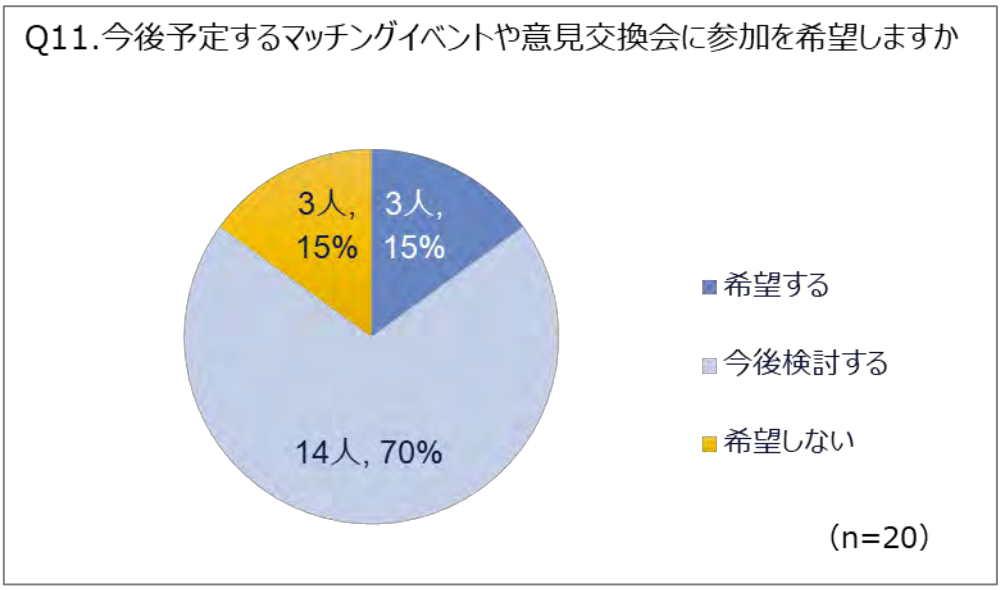
- 今後、地域交流をテーマとした公共施設の整備が決まっているため。

＜Q9 で「取り組みたいと思った」を回答＞

- 行政の縦割りに横ぐしを刺してできる総合的なまちづくりのテーマだと感じたから。

●マッチングイベント等への参加意向

マッチングイベントや意見交換会といった今後実施する「生涯活躍のまち」のイベントに対して、参加を「希望する」が 3 人（15%）、「今後検討する」が 14 人（70%）、「希望しない」が 3 人（15%）であった。




●マッチングイベント等への意見

Q11 で「希望する」「今後検討する」を選択した人に対し、マッチングイベント等に対する意見を募集したところ、1 人から回答があった。以下に記載する。（回答数： 1 件）

Q12. 今後予定するマッチングイベントや意見交換会にご意見があればお寄せください。（ご希望に添えない場合もございます。）

- 官・民・ボランティア・一般人がインターネットを介してお互いの知恵を出し合い、現実に実行できる仕組みが創設されるとよい。

以上

## 参考資料

参考資料１　第１回研究会議事概要及び資料
参考資料２　第２回研究会議事概要及び資料
参考資料３　第３回研究会議事概要及び資料
参考資料４　第４回研究会議事概要及び資料
参考資料５　横須賀市（鴨居地域）生涯活躍のコミュニティづくり実施計画
参考資料６　長岡市（川口地域）生涯活躍のコミュニティづくり実施計画
参考資料７　長浜市生涯活躍のコミュニティづくり実施計画
参考資料８　高取町生涯活躍のコミュニティづくり実施計画

※なお、各資料については株式会社 NTT データ経営研究所の主な説明資料を添付し、その他参加者の資料や参考資料については省略している。（参考資料５～８を除く）